

(様式第 10)

形大医経第 1104 号
令和 3 年 10 月 8 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人山形大学
学長 玉手 英 利

山形大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒990-8560 山形県山形市小白川町 1 丁目 4-1 2
氏 名	国立大学法人山形大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立大学法人山形大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒990-9585 山形県山形市飯田西 2 丁目 2 番 2 号	電話(023)633-1122
-------------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1呼吸器内科 2消化器内科 3循環器内科 4腎臓内科	
5神経内科 6血液内科 7内分泌内科 8代謝内科	
9感染症内科 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科 11リウマチ科	
診療実績	
1、2、3、4、5、6、7、8は「内科」で提供している。	
9、10、11については症状ごとに対応する診療科において提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

- 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無		
外科と組み合わせた診療科名			
1呼吸器外科	2消化器外科	3乳腺外科	4心臓外科
5血管外科	(6)心臓血管外科	7内分泌外科	8小児外科
診療実績	1、2、3、7、8は「外科」で提供している。 4、5は「6心臓血管外科」で提供している。		

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

(1)精神科	(2)小児科	(3)整形外科	(4)脳神経外科	(5)皮膚科	(6)泌尿器科	7産婦人科
(8)産科	(9)婦人科	(10)眼科	(11)耳鼻咽喉科	(12)放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	(15)麻酔科	(16)救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無		
歯科と組み合わせた診療科名			
1小児歯科	2矯正歯科	(3)口腔外科	
歯科の診療体制	一般的な歯科診療は診療所等の連携先で行い、特定機能病院である大学病院としては、主に複雑な症例について、医師10名程度で診療を行っている。		

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 循環器科	2 形成外科	3 病理診断科	4 リハビリテーション科	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21			

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	床	床	床	601床	637床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	399人	18人	403.4人	看護補助者	74人	診療エックス線技師	人
歯科医師	8人	4人	11.5人	理学療法士	15人	臨床検査技師	53人
薬 剤 師	41人	0人	41.0人	作業療法士	9人	衛生検査技師	人
保 健 師	人	人	人	視能訓練士	5人	その他	人
助産師	17人	0人	17.0人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	566人	28人	586.7人	臨床工学士	25人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	人	人	人	栄 養 士	人	その他の技術員	4人
歯科衛生士	2人	2人	3.8人	歯科技工士	1人	事務職員	74人
管理栄養士	7人	0人	7.0人	診療放射線技師	45人	その他の職員	88人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	81人	眼科専門医	12人
外科専門医	24人	耳鼻咽喉科専門医	13人
精神科専門医	9人	放射線科専門医	10人
小児科専門医	18人	脳神経外科専門医	7人
皮膚科専門医	10人	整形外科専門医	21人
泌尿器科専門医	14人	麻酔科専門医	16人
産婦人科専門医	15人	救急科専門医	3人
		合 計	253人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (佐藤 慎哉) 任命年月日 令和2年4月1日

医療事故等防止対策委員会委員 平成24年4月1日 ~

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	488人	5.7人	493.6人
1日当たり平均外来患者数	1143.4人	45.4人	1188.8人
1日当たり平均調剤数	875 剤		
必要医師数	118.2人		
必要歯科医師数	5.0人		
必要薬剤師数	16人		
必要(准)看護師数	286人		

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	129.5m ²	鉄筋コンクリート	病床数	6床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 173.29m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	11床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 49.65m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	364.08m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 臨床化学自動分析装置、血糖・Alc測定システム、免疫検査装置、蛋白分画測定装置			
細菌検査室	70.00m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細菌同定/感受性検査装置、LAMP法測定装置、結核用測定装置			
病理検査室	156.16m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動染色装置、凍結組織切片作成装置、密閉式自動固定包埋装置			
病理解剖室	80.61m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 感染症対策廃液処理装置、遺体貯蔵庫、解剖台			
研究室	10,583m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン			
講義室	275m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	収容定員	224人
図書室	1,195m ²	鉄筋コンクリート	室数	7室	蔵書数	93,411冊

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	79.78%	逆紹介率	95.65%
算出根拠	A: 紹介患者の数		9,444人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		12,840人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,265人
	D: 初診の患者の数		13,424人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
栗谷 義樹	地方独立行政 法人山形県・酒 田市病院機構 理事長	○	医療に係る安全 管理又は法律に 関する識見を有 する者その他の 学識経験を有す る者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
阿彦 忠之	山形県健康福 祉部医療統括 監		医療を受ける者 その他の医療従 事者以外の者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
根本 建二	山形大学理事 (病院担当)		病院関係業務を 担当する理事	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3
西岡 正樹	山形大学学術 研究院准教授		医療に係る安全 管理又は法律に 関する識見を有 する者その他の 学識経験を有す る者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1
佐多 和子	NPO 法人あい在 宅福祉サービ ス理事		医療を受ける者 その他の医療従 事者以外の者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法 本学のホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
神経変性疾患の遺伝子診断	7人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法 非小細胞肺癌(CT撮影により非浸潤がんと診断されたものを除く。)	0人
テモゾロミド用量強化療法	1人
ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る)	0人
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	経カテーテル大動脈弁留置術	取扱患者数	34人
当該医療技術の概要 カテーテルを使用した大動脈弁置換術であり、非常に低侵襲に弁置換術を達成できる。			
医療技術名	心臓再同期療法	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 協調性を失った左心室に対して多点ペーシングにより非同期状態を是正する。			
医療技術名	カテーテル心筋焼灼術(心房中隔穿刺)	取扱患者数	265人
当該医療技術の概要 心房中隔穿刺により左心房に到達し、心房細動に対する肺静脈隔離術、WPW症候群に対する副伝導路焼灼術などを行う。			
医療技術名	バルーン肺動脈形成術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 慢性肺血栓塞栓性肺高血圧症に対してカテーテルによるバルーン拡張を行い、低侵襲に肺高血圧を是正する。			
医療技術名	経皮的僧帽弁裂開術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 僧帽弁狭窄症に対してカテーテルによるバルーン拡張を行い低侵襲に弁膜症を治療できる。			
医療技術名	経皮的中隔心筋焼灼術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 冠動脈中隔枝に少量のエタノールを注入することで、閉塞性肥大型心筋症の左室流出路狭窄を改善する。			
医療技術名	着用型自動除細動器による突然死予防	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 着脱が可能な除細動器を使うことで心室細動などの致死的な不整脈を予防する。			
医療技術名	難治性ネフローゼにおけるRituximabによる治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 従来の治療に応性の難治性ネフローゼにおいて(特に重度のステロイド依存性のもの)、抗体医薬を用いた治療を行い、ステロイド減量、再発抑制が可能となっている。			
医療技術名	超音波ガイド下経気管支肺生検	取扱患者数	136人
当該医療技術の概要 末梢気管支に超音波ガイドで鉗子を挿入し、小病変の生検をより精度を高くして行う。			
医療技術名	超音波ガイド下経気管支縦隔リンパ節生検	取扱患者数	34人
当該医療技術の概要 縦隔リンパ節に対し、経気管支的に超音波ガイドを行い、生検を行う。			
医療技術名	経皮的左心耳閉鎖術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 抗凝固薬の継続が困難な心房細動において、血栓塞栓症を予防するために、カテーテルで左心耳を閉鎖する。			

医療技術名	植込み型除細動器植込み術	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 致死性不整脈の症例において、突然死予防のために除細動器を植込みする。			
医療技術名	カテーテル心筋焼灼術(心外膜アプローチ)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 心膜穿刺により心外膜に到達し、心室頻拍に対する焼灼術などを行う。			
医療技術名	補助循環用ポンプカテーテル挿入	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 心原性ショックを呈した重症心不全に対して、左室内にポンプを留置することで心機能を補助する。			
医療技術名	高速回転アブレーション	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 ダイヤモンドの細かい粒を付着させたドリルで、冠動脈石灰化病変を削ることで心臓への血流を改善する。			
医療技術名	タファミジス(商品名:ビンダケル)の導入	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 トランスサイレチン型心アミロイドーシスの患者に対しTTR四量体安定化薬ビンダケルを投与し、病状の進行を抑える。			
医療技術名	経静脈電極抜去術(レーザーを用いないもの)	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 心内に植込みされた癒着した電極リード抜去を開胸することなく低侵襲に抜去する。			
医療技術名	好酸球性食道炎に対するステロイド食道局所治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 指定難病として告知されている好酸球性食道炎に対する吸入型ステロイド製剤の内服治療で、ステロイド全身投与に比し、副作用を格段に抑えることが可能である。			
医療技術名	家族性地中海熱に対するMEFV遺伝子診断と治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 処置後狭窄が必発である広範囲の食道癌内視鏡切除後の潰瘍に吸収性組織補強材ポリグリコール酸シートを貼付し狭窄を予防する処置である。			
医療技術名	カプセル内視鏡を用いた大腸スクリーニング検査	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 大腸内視鏡検査施行困難症例に対し侵襲の少ないカプセル型内視鏡を用いた画像検査が可能である。			
医療技術名	ダブルバルーン内視鏡を用いた小腸疾患の診断と治療	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 通常の内視鏡検査では観察・処置が困難である小腸疾患に対する内視鏡診断および治療が可能である。			
医療技術名	十二指腸乳頭腺腫に対する内視鏡的乳頭切除術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 術中・術後出血や急性膵炎といった合併症のリスクが高く、切除後の胆管・膵管ステント管理を要する高難度の内視鏡手術である。			
医療技術名	膵腫瘍に対する超音波内視鏡(EUS)下エラストグラフィ	取扱患者数	43人
当該医療技術の概要 膵腫瘍に対してEUS下にエラストグラフィにて、補助診断する。			

医療技術名	膵腫瘍に対する超音波内視鏡下穿気刺吸引細胞診(EUS-FNA)	取扱患者数	43人
当該医療技術の概要 膵腫瘍に対してEUS下に穿刺して、組織を採取して病理学的に診断する。			
医療技術名	慢性膵炎に対する膵管ステント治療	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 慢性膵炎の膵管狭窄に対して、膵液流出障害を改善するため、膵管内にステントを留置する治療			
医療技術名	術後腸管に対するバルーン内視鏡治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 術後腸管は通常内視鏡では胆管膵管造影ができず、バルーン内視鏡を用い、膵胆道処置をする検査である。			
医療技術名	電気水圧衝撃波胆管結石破碎術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 内視鏡的に砕石困難な胆管結石に対して、胆道鏡下に電気水圧衝撃波で砕石を行う高難度の内視鏡手術である。			
医療技術名	超音波内視鏡下膵嚢胞ドレナージ術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 感染性の膵仮性嚢胞に対して、超音波内視鏡下穿刺術で内瘻もしくは外瘻ドレナージを行う高難度の手術である。			
医療技術名	胃静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 胃静脈瘤に対して内視鏡的に硬化剤を注入し静脈瘤消退効果を図る治療			
医療技術名	肝硬変症例に対するフィブロスキャンを用いた肝硬度診断	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 フィブロスキャンを用いて剪断波による肝硬度測定を行い、非観血的診断を行う検査			
医療技術名	肝細胞癌に対するマイクロ波焼灼療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 3cmを超える肝細胞癌に対するマイクロ波焼灼にて経皮的に根治が期待できる治療			
医療技術名	可変式穿刺針による多発肝細胞癌経皮的治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 サイズの異なる多発肝細胞癌に対して焼灼範囲可変式穿刺針を用いて効果的に焼灼する治療			
医療技術名	がんゲノムプロファイリング検査	取扱患者数	160人
当該医療技術の概要 がん遺伝子パネル検査を行うことで、がん治療に有用な遺伝子変異を検出する。がん組織を用いたパネル検査や血漿検体からのパネル検査などあり、新規治療薬の臨床試験に登録を行うことで新たな治療薬の開発を行っていく。			
医療技術名	切除不能・転移性重症筋無力症合併胸腺腫への化学療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 胸腺腫は稀な腫瘍であり、化学療法のエビデンスや実績には限りがあり経験の無い施設が多い。 その中でも指定難病であり重症筋無力症併発例への化学療法は困難を極める。			
医療技術名	germline panel検査	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 本邦でも契約している施設が少ないgermline panel検査についても積極的に情報提供を行い、希望症例へ施行している。			

医療技術名	血縁同種末梢血幹細胞移植	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 血縁ドナーからの末梢血幹細胞採取後に行う移植			
医療技術名	同種臍帯血移植	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 臍帯血バンクから提供される臍帯血を用いた同種移植。通常の移植よりも厳格な管理を必要とする。			
医療技術名	自家末梢血幹細胞移植	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 骨髄腫や再発難治治療感受性のある悪性リンパ種に対する、超強力な化学療法を行うための方策			
医療技術名	血縁・非血縁および自家末梢血幹細胞採取	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要 G-CSFまたは化学療法後のG-CSF投与下において末梢血幹細胞を採取する方法			
医療技術名	脳髄黄色腫症の診断と治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 脳髄黄色腫症の遺伝子診断とケノデオキシコール酸による治療を行っている。			
医療技術名	脳髄黄色腫症の遺伝子診断	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 全国から脳髄黄色腫症患者の遺伝子診断を当該施設で行っている。			
医療技術名	免疫チェックポイント阻害薬投与時の内分泌機能障害への検査と治療	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 当院で悪性腫瘍に対する免疫チェックポイント阻害薬投与時に生じた内分泌機能障害に対して診断と治療を行っている。			
医療技術名	下垂体腫瘍患者の術前後機能評価	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 内科と脳神経外科が協力し、県内の下垂体腫瘍患者の内分泌学的な診断を行っている。			
医療技術名	下垂体機能不全患者へのホルモン補充療法	取扱患者数	320人
当該医療技術の概要 当院脳神経外科で手術治療を受けた下垂体腫瘍患者へのホルモン補充療法を行っている。県内で発症した下垂体腫瘍患者のほとんどは、当院で治療している。			
医療技術名	難治性ホルモン生産下垂体腺腫の薬物療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 県内で発症した下垂体腫瘍の中で、手術治療のみで奏功しない難治性のものに、薬物治療を追加している。全症例について難病申請を行っている。			
医療技術名	異所性クッシング症候群の診断と治療	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 県内で発症した異所性クッシング症候群に下錐体静脈サンプリング、海綿静脈洞サンプリングやオクトレオスキャンなどの検査を行い、メチラボンによる薬物療法を行っている。			
医療技術名	原発性アルドステロン症の局在診断と治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 県内で発症した副腎腫瘍の内、原発性アルドステロン症が疑われる症例に対し、選択的副腎静脈サンプリングを行って局在診断を行い、手術治療・薬物療法を行っている。			

医療技術名	神経内分泌腺腫瘍の診断と治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 内分泌学的診断とオクトレオスキャンによる局在診断、ソマトスタチン受容体作動薬による治療を行っている。			
医療技術名	SAP療法(パーソナルCGM機能搭載インスリンポンプ療法)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 糖尿病患者に対して、CGM(持続皮下グルコースモニタリング)機能を搭載したインスリンポンプを行い、より厳格に血糖管理を行う。			
医療技術名	インスリン持続皮下注入療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 プログラム付き体外式インスリン注入器(インスリンポンプ)により、より精密なインスリン皮下注を行うことで、1型糖尿病患者の血糖管理を行う。			
医療技術名	遺伝性糖尿病の遺伝子診断	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 若年発症で家族歴のある遺伝性糖尿病患者の遺伝子診断を行っている。			
医療技術名	CGM(持続血糖モニタリング)による血糖日内変動の評価	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 糖尿病患者において採血や自己血糖測定では評価が難しかった血糖値の日内変動を皮下グルコース濃度のモニタリングで持続的に評価している。			
医療技術名	成人成長ホルモン分泌不全患者への成長ホルモン補充療法	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要 県内で発症した成人成長ホルモン分泌不全症への、成長ホルモン補充療法を行っている。 全症例について難病申請を行っている。			
医療技術名	遺伝性色素異常症の網羅的遺伝子判断	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 次世代シーケンサーを使用して、約60の原因遺伝子を網羅的に解析する。			
医療技術名	原発性アルドステロン症の局在診断と治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 県内で発症した副腎腫瘍の内、原発性アルドステロン症が疑われる症例に対し、選択的副腎静脈サンプリングを行って局在診断を行い、手術治療・薬物療法を行っている。			
医療技術名	頭頸部癌に対する超選択的動注化学放射線同時併用療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 大量の抗がん剤の動注と根治線量の照射を併用することにより殺細胞効果を期待する治療			
医療技術名	神経内分泌腺腫瘍の診断と治療	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 内分泌学的診断とオクトレオスキャンによる局在診断、ソマトスタチン受容体作動薬による治療を行っている。			
医療技術名	密封小線源(RALS)	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 放射性物質(^{192}Ir)を専用アプリーケーターを用いて腫瘍近傍に留置し、数分間停留させることで体内の腫瘍に集中的かつ効率的に照射する方法			
医療技術名	強度変調放射線治療(IMRT)	取扱患者数	94人
当該医療技術の概要 照射野の形状を変化させながら複数のビームを用いて、腫瘍の形状に合わせて放射線治療を行う方法			

医療技術名	定位放射線治療 (SRT)	取扱患者数	47人
当該医療技術の概要 小さく限局した腫瘍に対し、三次元的に細いビームを複数方向から照射する方法			
医療技術名	放射性ヨード内用療法 (I-131内用療法)	取扱患者数	42人
当該医療技術の概要 甲状腺癌がヨードを取り込む性質を有することを利用し、I-131 (ヨード) カプセルを内服することで施行する放射線治療。甲状腺癌や甲状腺機能亢進症で用いられる。			
医療技術名	重粒子線治療	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 重粒子 (炭素イオン) 線を光の速度の約70%まで加速させて、がん病巣に照射する放射線治療。			
医療技術名	胃癌に対するロボット支援手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 胃癌に対して手術支援ロボットを用いて胃切除術を行っている。			
医療技術名	腹腔鏡内視鏡合同手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 胃粘膜下腫瘍に対し、腹腔鏡と内視鏡の両者を用いた胃部分切除術を行っている。			
医療技術名	食道癌に対する三剤併用術前化学療法	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 進行食道癌に対し、フルオロウラシル、シスプラチン、ドセタキセルの三剤を用いた術前化学療法を行っている。			
医療技術名	大腸癌に対するロボット支援手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 大腸癌に対して手術支援ロボットを用いて結腸切除術を行っている。			
医療技術名	直腸癌に対する経肛門的直腸間膜切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 直腸癌に対して通常の操作に加え、肛門からの鏡視下操作が加わった手術を行っている。			
医療技術名	膵癌に対する術前化学療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 膵癌に対し、ゲムシタピン+S-1を併用した術前化学療法を行っている。			
医療技術名	ICGを使用した肝亜区域切除術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 ICG蛍光モニターを用いて術中に肝亜区域の同定を行っている。			
医療技術名	乳癌に対するエキスパンダーとインプラントを用いた乳房再建	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 エキスパンダーとインプラントを用いた乳房再建術を行っている。			
医療技術名	遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する遺伝子検査と予防的乳房切除術を行っている。			

医療技術名	僧帽弁形成術	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 僧帽弁閉鎖不全症に対して、自己弁を温存し、形成術を行っている。			
医療技術名	ステントグラフト内挿術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 急性大動脈解離に対して、開胸することなく、低侵襲に治療できる。			
医療技術名	急性大動脈解離手術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 スタンフォードA型急性大動脈解離に、緊急手術を行い救命する。			
医療技術名	ハイブリット手術室を使用した脳動静脈奇形手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ハイブリット手術室を用いて、術中血管撮影を行い、脳動静脈奇形を治療するもの			
医療技術名	ハイブリット手術室を使用した脳動脈瘤手術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 ハイブリット手術室を用いて、術中血管撮影を行い、脳動脈瘤治療を行うもの			
医療技術名	術中MRI室を使用した脳腫瘍摘出術	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 術中MRI室を用いて、各種神経モニタリングを行いながら、脳腫瘍の手術を行うもの			
医療技術名	同種骨移植	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 2000年2月より施設内にボーンバンクを設立し、自家骨や人工骨で対応困難な広範囲骨欠損例に対して加温滅菌処理同種骨を用いて関節機能再建を行う。			
医療技術名	自家培養軟骨移植術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 膝関節軟骨欠損に対し、患者自身から軟骨を採取、培養して移植を行う。			
医療技術名	遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)に対する遺伝子検査及び遺伝相談	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 HBOCが疑われる患者に遺伝子検査及び遺伝相談を行っている。			
医療技術名	不妊症・不育症の原因精査と治療	取扱患者数	75人
当該医療技術の概要 内科と産婦人科が協力し、内分泌的な診断と治療を県内不妊症・不育症患者に提供している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 子宮体癌に対してロボット支援手術を行っている。			
医療技術名	水疱性角膜症に対する角膜内皮移植術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 国内ドナー角膜をマイクロケラトームで加工することにより、角膜内皮移植術を施行している。			

医療技術名	中耳疾患に対する経外耳道的内視鏡下耳科手術(TEES)	取扱患者数	157人
当該医療技術の概要 当院耳鼻咽喉科が世界に先駆けて開発した、低侵襲で安全性の高い、機能温存をコンセプトとした手術手技。			
医療技術名	ウイルス性顔面神経麻痺患者に対する内視鏡下顔面神経再生術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 重症のウイルス性顔面神経麻痺患者に対して神経再生を目指した新たな低侵襲手術である。			
医療技術名	甲状腺腫瘍に対する内視鏡下甲状腺手術(VANS)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 一般的な外切開による甲状腺手術に比較して、切開創が目立たず審美的に優れるだけでなく、拡大視により安全な操作が可能となる手術術式。			
医療技術名	頭頸部がんに対する超選択的動注化学放射線同時併用療法(RADPLAT)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 癌の栄養血管を介して大量の抗がん剤を投与しながら全身へ移行する抗がん剤を中和する効果的で副作用の少ない化学療法と放射線治療を併用することにより有効な殺細胞効果が期待される治療法。			
医療技術名	鏡視下咽喉頭手術(TOVS)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 経口的な内視鏡操作で咽頭癌、喉頭癌を摘出する、従来の外切開による手術に比較して低侵襲な治療法である。			
医療技術名	ロボット支援腎部分切除術	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 小径腎細胞癌に対して手術支援ロボットを用いて腹腔鏡下に腎部分切除を施行するもの。			
医療技術名	ロボット支援根治的膀胱全摘除術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 筋層浸潤性膀胱癌に対して手術支援ロボットを用いて腹腔鏡下に根治的膀胱全摘除術を施行するもの。			
医療技術名	ロボット支援腎盂形成術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 腎尿管移行部狭窄による水腎症に対して手術支援ロボットを用いて腹腔鏡下に腎盂形成術を施行するもの			
医療技術名	血液型不適合腎移植	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 血液型不適合ドナーからの腎移植			
医療技術名	人工尿道括約筋植え込み術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 特に前立腺癌に対する根治的前立腺全摘除術後の重度な腹圧性尿失禁に対して、人工尿道括約筋を植え込むことで尿失禁を改善させるもの			
医療技術名	顎骨再建術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 悪性腫瘍または巨大な良性腫瘍、広範囲顎骨壊死に金属プレート及び骨移植で再建手術を行ったもの			
医療技術名	乳癌に対するエキスパンダー乳房再建	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 エキスパンダー(組織拡張器)を用いた切除後の乳房再建を行っている。			

医療技術名	自家遊離複合組織移植による乳房二期再建	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 血管柄付きの自家遊離複合組織を用いた乳房再建術を行っている。			
医療技術名	脊髄電極刺激療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 難治性疼痛や四肢虚血性疾患に対し、頸～胸椎レベルに刺激電極を留置しIPGを埋め込み連続的に刺激し症状を緩和させる技術			
医療技術名	がんゲノムプロファイリング検査	取扱患者数	160人
当該医療技術の概要 がん遺伝子パネル検査を行うことで、がん治療に有用な遺伝子変異を検出する。がん組織を用いたパネル検査や血漿検体からのパネル検査などあり、新規治療薬の臨床試験に登録を行うことで新たな治療薬の開発を行っている。			
医療技術名	切除不能・転移性重症筋無力症合併胸腺腫への化学療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 胸腺腫は稀な腫瘍であり、化学療法のエビデンスや実績には限りがあり経験の無い施設が多い。 その中でも指定難病であり重症筋無力症併発例への化学療法は困難を極める。			
医療技術名	germline panel検査	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 本邦でも契約している施設が少ないgermline panel検査についても積極的に情報提供を行い、希望症例へ施行している。			
医療技術名	CGM(持続血糖モニタリング)による血糖日内変動の評価	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 糖尿病患者において採血や自己血糖測定では評価が難しかった血糖値の日内変動を持続的に評価している。			
医療技術名	成人成長ホルモン分泌不全患者への成長ホルモン補充療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 県内で発症した成人成長ホルモン分泌不全症への成長ホルモン補充療法を行っている。全症例について難病申請を行っている。			
医療技術名	難治性ネフローゼにおけるRituximabによる治療	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 従来の治療に不応性の難治性ネフローゼにおいて(特に重度のステロイド依存性のもの)、抗体医薬を用いた治療を行い、ステロイド減量、再発抑制が可能となっている。			
医療技術名	シトリン欠損症の中鎖脂肪酸による治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 効果的な治療が無かったシトリン欠損症において中鎖脂肪酸経口投与により、効果が得られている。			
医療技術名	先天性中枢性低換気症候群:PHOX2B遺伝子解析による診断	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 依頼された日本全国の症例を対象に先天性中枢性低換気症候群のPHOX2Bによる遺伝子診断を担っている。			
医療技術名	重症新生児肺高血圧に対する一酸化窒素吸入治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 重症の新生児肺高血圧に対して、一酸化窒素吸入治療を併用する事で治療を行う。			
医療技術名	先天性心疾患におけるカテーテルインターベンションによる治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 先天性心疾患において、従来開胸術で行われていた外科的治療をカテーテルによって侵襲が格段に少ない技術を用い、同等の効果をあげている。			

医療技術名	てんかん性脳症と脳形成異常症に対するARX遺伝子解析	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 点頭てんかんや脳形成異常症に対するARX遺伝子診断を全国的な症例を対象に提供している。			
医療技術名	長時間ビデオ脳波によるてんかん診断	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 てんかん発作と脳波異常の関係を明らかにするために、ビデオ記録と脳波測定を同時に行い、適切な診断を提供している。			
医療技術名	性分化疾患の診断と治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 染色体の性と性腺、内性器、外性器の性が一致しない症例の診断管理を行っている。染色体、遺伝子、性分化の知識に加え、社会的・心理的支援などのスキルを要する。			
医療技術名	タンデムマススクリーニング陽性例の診断と管理	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 山形県の新生児マススクリーニング陽性例のうちタンデムマススクリーニング陽性例の精査、診断、管理はすべて当院で行っている。希少疾患が多く、高度の専門性を要する。			
医療技術名	Gaucher病における酵素補充療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 希少疾患であるGaucher病に対する特異的な治療であり、県内唯一の治療機関となっている。			
医療技術名	Prader-Wili症候群の診断と治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 Prader-Wili症候群の管理には、内分泌学、遺伝学、心理学における高度な専門的知識が要求される。社会的な支援が必要なことも多い。			
医療技術名	血縁・非血縁同種骨髄移植	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 県内唯一の非血縁造血細胞移植認定施設として、小児の造血細胞移植を担っている。			
医療技術名	非血縁者移植骨髄採取術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 県内唯一の骨髄バンク採取認定施設であり、骨髄バンクより依頼があった場合に麻酔科の協力のもと採取を行う。			
医療技術名	自家末梢血幹細胞移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 悪性固形腫瘍に対する大量化学療法を行うための救援療法			
医療技術名	自家末梢血幹細胞採取	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 化学療法後のG-CSF、プレリキサホル投与下で末梢血幹細胞を採取する方法			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	6	56	ベーチェット病	67
2	筋萎縮性側索硬化症	31	57	特発性拡張型心筋症	91
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	13
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	12
6	パーキンソン病	93	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	15
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トウス病	2	65	原発性免疫不全症候群	11
11	重症筋無力症	60	66	IgA腎症	19
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	28
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	52	68	黄色靱帯骨化症	3
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	6	69	後縦靱帯骨化症	16
15	封入体筋炎	6	70	広範脊柱管狭窄症	1
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	45
17	多系統萎縮症	14	72	下垂体性ADH分泌異常症	4
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	39	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	1	74	下垂体性PRL分泌亢進症	5
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	8
21	ミトコンドリア病	8	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	57	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	24
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	99
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	9	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	57
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	56
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	15
32	自己食空腔性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	23
34	神経線維腫症	24	89	リンパ脈管筋腫症	4
35	天疱瘡	17	90	網膜色素変性症	34
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	7	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	55
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	4
40	高安動脈炎	22	95	自己免疫性肝炎	5
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	90
42	結節性多発動脈炎	6	97	潰瘍性大腸炎	79
43	顕微鏡的多発血管炎	35	98	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	3	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	12	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	7	101	腸管神経節細胞減少症	1
47	バージャー病	8	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	159	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	71	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	65	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
52	混合性結合組織病	35	107	若年性特発性関節炎	10
53	シェーグレン症候群	14	108	旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	1
54	成人ステル病	20	109	TNF受容体関連周期性症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	4	110	非典型溶血性尿毒症症候群	0
				ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
1	先天性ミオパチー	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
0	マリネスコ・シェーグレン症候群	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	13
4	筋ジストロフィー	163	特発性後天性全身性無汗症	2
0	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	164	眼皮膚白皮症	0
1	遺伝性周期性四肢麻痺	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
0	アトピー性脊髄炎	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
2	脊髄空洞症	167	マルファン症候群	8
0	脊髄髄膜瘤	168	エーラス・ダンロス症候群	0
0	アイザックス症候群	169	メンケス病	0
0	遺伝性ジストニア	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
0	神経フェリチン症	171	ウィルソン病	2
1	脳表ヘモジデリン沈着症	172	低ホスファターゼ症	0
0	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	173	VATER症候群	0
0	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	174	那須・ハコラ病	0
0	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	175	ウィーバー症候群	0
0	ペリー症候群	176	コフィン・ローリー症候群	0
5	前頭側頭葉変性症	177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
0	ピッカースタッフ脳幹脳炎	178	モワット・ウィルソン症候群	0
0	痙攣重積型(二相性)急性脳症	179	ウィリアムズ症候群	0
0	先天性無痛無汗症	180	ATR-X症候群	0
0	アレキサンダー病	181	クルーゾン症候群	0
0	先天性核上性球麻痺	182	アペール症候群	0
0	メビウス症候群	183	ファイファー症候群	0
0	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
0	アイカルディ症候群	185	コフィン・シリス症候群	0
0	片側巨脳症	186	ロスモンド・トムソン症候群	0
1	限局性皮質異形成	187	歌舞伎症候群	0
0	神経細胞移動異常症	188	多脾症候群	0
0	先天性大脳白質形成不全症	189	無脾症候群	1
0	ドラベ症候群	190	鰓耳腎症候群	0
0	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	191	ウェルナー症候群	0
0	ミオクロニー欠神てんかん	192	コケイン症候群	0
0	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	193	ブラダー・ウィリ症候群	2
0	レノックス・ガストー症候群	194	ソース症候群	2
0	ウエスト症候群	195	ヌーナン症候群	0
0	大田原症候群	196	ヤング・シンブソン症候群	1
0	早期ミオクロニー脳症	197	1p36欠失症候群	0
0	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	198	4p欠失症候群	0
0	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	199	5p欠失症候群	0
0	環状20番染色体症候群	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
0	ラスムッセン脳炎	201	アンジェルマン症候群	0
1	PCDH19関連症候群	202	スミス・マジニス症候群	0
0	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	203	22q11.2欠失症候群	0
0	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	204	エマヌエル症候群	0
0	ランドウ・クレフナー症候群	205	脆弱X症候群関連疾患	0
0	レット症候群	206	脆弱X症候群	0
0	スタージ・ウェーバー症候群	207	総動脈幹遺残症	0
8	結節性硬化症	208	修正大血管転位症	0
1	色素性乾皮症	209	完全大血管転位症	0
0	先天性魚鱗癬	210	単心室症	0

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
211 左心低形成症候群	0	272 進行性骨化性線維異形成症	0
212 三尖弁閉鎖症	3	273 肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
213 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	274 骨形成不全症	1
214 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	275 タナトフォリック骨異形成症	0
215 ファロー四徴症	3	276 軟骨無形成症	4
216 両大血管右室起始症	1	277 リンパ管腫症/ゴーム病	0
217 エプスタイン病	0	278 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
218 アルポート症候群	0	279 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
219 ギャロウェイ・モワト症候群	0	280 巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
220 急速進行性糸球体腎炎	3	281 クリッペルトレノニー・ウェーバー症候群	0
221 抗糸球体基底膜腎炎	0	282 先天性赤血球形成異常性貧血	0
222 一次性ネフローゼ症候群	26	283 後天性赤芽球癆	0
223 一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	284 ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
224 紫斑病性腎炎	0	285 ファンコニ貧血	0
225 先天性腎性尿崩症	0	286 遺伝性鉄芽球性貧血	0
226 間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	287 エプスタイン症候群	0
227 オスラー病	1	288 自己免疫性出血病XIII	0
228 閉塞性細気管支炎	0	289 クロンカイト・カナダ症候群	0
229 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	290 非特異性多発性小腸潰瘍症	0
230 肺胞低換気症候群	0	291 ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
231 α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	292 総排泄腔外反症	0
232 カーニー複合	0	293 総排泄腔遺残	1
233 ウォルフラム症候群	1	294 先天性横隔膜ヘルニア	0
234 ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	295 乳幼児肝巨大血管腫	0
235 副甲状腺機能低下症	0	296 胆道閉鎖症	1
236 偽性副甲状腺機能低下症	0	297 アラジール症候群	0
237 副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	298 遺伝性膀胱炎	0
238 ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	299 嚢胞性線維症	0
239 ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	300 IgG4関連疾患	4
240 フェニルケトン尿症	4	301 黄斑ジストロフィー	1
241 高チロシン血症1型	0	302 レーベル遺伝性視神経症	0
242 高チロシン血症2型	0	303 アッシャー症候群	0
243 高チロシン血症3型	0	304 若年発症型両側性感音難聴	1
244 メーブルシロップ尿症	0	305 遅発性内リンパ水腫	0
245 プロピオン酸血症	1	306 好酸球性副鼻腔炎	27
246 メチルマロン酸血症	2	307 カナバン病	0
247 イソ吉草酸血症	2	308 進行性白質脳症	0
248 グルコーストランスポーター1欠損症	0	309 進行性ミオクローヌスてんかん	0
249 グルタル酸血症1型	0	310 先天異常症候群	0
250 グルタル酸血症2型	0	311 先天性三尖弁狭窄症	0
251 尿素サイクル異常症	0	312 先天性僧帽弁狭窄症	0
252 リジン尿性蛋白不耐症	0	313 先天性肺静脈狭窄症	0
253 先天性葉酸吸収不全	0	314 左肺動脈右肺動脈起始症	0
254 ポルフィリン症	0	315 ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0
255 複合カルボキシラーゼ欠損症	0	316 カルニチン回路異常症	0
256 筋型糖原病	0	317 三頭筋欠損症	0
257 肝型糖原病	0	318 シトリン欠損症	2
258 ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	319 セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
259 レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	320 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
260 シトステロール血症	0	321 非ケト-シス型高グリシン血症	0
261 タンジール病	0	322 β -ケトチオラーゼ欠損症	0
262 原発性高カイロミクロン血症	0	323 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	1
263 脳腫黄色腫症	1	324 メチルグルタコン酸尿症	0
264 無 β リポタンパク血症	0	325 遺伝性自己炎症疾患	0
265 脂肪萎縮症	0	326 大理石骨病	0
266 家族性地中海熱	0	327 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
267 高IgD症候群	0	328 前眼部形成異常	0
268 中條・西村症候群	0	329 無虹彩症	0
269 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	330 先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	0
270 慢性再発性多発性骨髄炎	0	331 特発性多中心性キャッスルマン病	4
271 強直性脊椎炎	19	332 膠様滴状角膜ジストロフィー	0
		333 ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
歯科外来診療環境体制加算2	ハイリスク妊娠管理加算
歯科診療特別対応連携加算	ハイリスク分娩管理加算
特定機能病院入院基本料(一般病棟)	後発医薬品使用体制加算2
特定機能病院入院基本料(精神病棟)	病棟薬剤業務実施加算1
救急医療管理加算	病棟薬剤業務実施加算2
超急性期脳卒中加算	データ提出加算2及び4
診療録管理体制加算1	入退院支援加算2
医師事務作業補助体制加算1	入退院支援加算3
急性期看護補助体制加算(25対1)(5割以上)	地域連携診療計画加算
看護職員夜間12対1配置加算1	入院時支援加算
看護補助加算2(精神病棟)(50:1)	注8に掲げる総合機能評価加算
療養環境加算	認知症ケア加算2
重症者等療養環境特別加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
無菌治療室管理加算1	精神疾患診療体制加算
無菌治療室管理加算2	精神科急性期医師配置加算(2のイ)
緩和ケア診療加算	地域医療体制確保加算
個別栄養食事管理加算	地域歯科診療支援病院入院加算
精神科身体合併症管理加算	特定集中治療室管理料2
精神科リエゾンチーム加算	特定集中治療室管理料の注2に掲げる小児加算
摂食障害入院医療管理加算	早期栄養介入管理加算
栄養サポートチーム加算	ハイケアユニット入院医療管理料1
医療安全対策加算1	新生児特定集中治療室管理料1
感染防止対策加算1	新生児治療回復室入院医療管理料
感染防止対策地域連携加算	小児入院医療管理料2
抗菌薬適正使用支援加算	プレイルーム加算
患者サポート体制充実加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	羊膜移植術
喘息治療管理料	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
糖尿病合併症管理料	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
がん性疼痛緩和指導管理料	網膜再建術
がん患者指導管理料イ	人工中耳植込術
がん患者指導管理料ロ	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
がん患者指導管理料ハ	内視鏡下鼻・副鼻腔手術5型(拡大副鼻腔手術)
がん患者指導管理料ニ	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
外来緩和ケア管理料	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	内視鏡下中伏脈部切除術、腭腫瘍摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)摘出術
糖尿病透析予防指導管理料	内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
小児運動器疾患指導管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)(乳がんセンチネルリンパ節加算1)
乳腺炎重症化予防・ケア指導料	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)(センチネルリンパ節生検(併用))
婦人科特定疾患治療管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)(乳がんセンチネルリンパ節加算2)
腎代替療法指導管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)(センチネルリンパ節生検(単独))
外来放射線照射診療料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	長冠縫合術(牙孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
がん治療連携計画策定料	胸腔鏡下弁形成術
肝炎インターフェロン治療計画料	経カテーテル大動脈弁置換術
ハイリスク妊産婦連携指導料1	胸腔鏡下弁置換術
ハイリスク妊産婦連携指導料2	経皮的僧帽弁クリップ術
薬剤管理指導料	不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
医療機器安全管理料1	経皮的中隔心筋焼灼術
医療機器安全管理料2	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術

医療機器安全管理料(歯科)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
持続血糖測定器加算(間歇注入インリンポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
遺伝学的検査	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
骨髄微小残存病変量測定	両室ペースメーティング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペースメーティング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
BRCA1/2遺伝子検査	両室ペースメーティング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペースメーティング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
がんゲノムプロファイリング検査	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
先天性代謝異常症検査	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	補助人工心臓
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	腹腔鏡下小切開腎臓内リンパ節群摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎流出症、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
検体検査管理加算(IV)	腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
国際標準検査管理加算	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
遺伝カウンセリング加算	腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
胎児心エコー法	腹腔鏡下肝切除術
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	生体部分肝移植術
ヘッドアップティルト試験	腹腔鏡下腓腫瘍摘出術
長期継続頭蓋内脳波検査	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
長期脳波ビデオ同時記録検査1	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
単線維筋電図	腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
脳磁図(その他のもの)	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
神経学的検査	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
補聴器適合検査	同種死体腎移植術
コンタクトレンズ検査料1	生体腎移植術
小児食物アレルギー負荷検査	膀胱水圧拡張術
内服・点滴誘発試験	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経気管支凍結生検法	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
画像診断管理加算1	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術

画像診断管理加算2	人工尿道括約筋植込・置換術
画像診断管理加算3	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
ポジトロン断層撮影	腹腔鏡下仙骨腫固定術
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
CT撮影及びMRI撮影	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
冠動脈CT撮影加算	胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
血流予備量比コンピューター断層撮影	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する乳房切除術に限る)
心臓MRI撮影加算	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する子宮付属器腫瘍摘出術)
乳房MRI撮影加算	輸血管理料Ⅰ
小児鎮静下MRI撮影加算	輸血適正使用加算
頭部MRI撮影加算	貯血式自己血輸血管理体制加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	コーディネート体制充実加算
外来化学療法加算1	自己生体組織接着剤作成術
無菌製剤処理料	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	同種クリオプレシピテート作製術
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	歯周組織再生誘導手術
がん患者リハビリテーション料	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
集団コミュニケーション療法料	歯根端切除手術の注3
歯科口腔リハビリテーション料2	麻酔管理料(Ⅰ)
経頭蓋磁気刺激療法	麻酔管理料(Ⅱ)
認知療法・認知行動療法1	放射線治療専任加算
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	外来放射線治療加算
医療保護入院等診療料	遠隔放射線治療計画加算
口腔粘膜処置	高エネルギー放射線治療
レーザー機器加算	1回線量増加加算
エタノールの局所注入(甲状腺)	強度変調放射線治療(IMRT)
エタノールの局所注入(副甲状腺)	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
導入期加算2及び腎代替療法実績加算	体外照射呼吸性移動対策加算
手術用顕微鏡加算	定位放射線治療

歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
CAD/CAM冠	粒子線治療
歯科技工加算1及び2	粒子線治療適応判定加算
センチネルリンパ節加算	粒子線治療医学管理加算
四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	画像誘導密封小線源治療加算
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	保険医療機関間の連携による病理診断
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
椎間板内酵素注入療法	病理診断管理加算2
脳腫瘍覚醒下マッピング加算	デジタル病理画像による病理診断
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	悪性腫瘍病理組織標本加算
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	口腔病理診断管理加算2
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	クラウン・ブリッジ維持管理料
角膜移植術(内皮移植加算)	



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・神経変性疾患の遺伝子診断	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	32回/年
剖 検 の 状 況	剖検症例数 17例 / 剖検率 6.0%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
自然免疫受容体と選択的オートファジーから探る人工関節インプラント感染症の病態	高木 理彰	整形外科	4,100,000	補委 日本学術振興会
PLK2ノックアウトによるSer129リン酸化 α シヌクレイン神経毒性の解明	佐藤 裕康	第三内科	1,100,000	補委 日本学術振興会
特発性正常圧水頭症モデルマウスの作成と新規疾患感受性遺伝子の同定	小山 信吾	第三内科	600,000	補委 日本学術振興会
再発卵巣癌の抗癌剤耐性克服にむけたメタボローム解析に基づく新規治療開発	永瀬 智	産科婦人科	900,000	補委 日本学術振興会
糖尿病網膜症における脈絡膜病態の関与についての分子疫学的研究	山下 英俊	眼科	700,000	補委 日本学術振興会
膠原病モデルマウスの放射線に対する高感受性に薬剤が与える影響の検討	赤松 妃呂子(須藤 妃呂子)	放射線治療科	200,000	補委 日本学術振興会
脂肪性肝疾患における肝再生機構の解明	星川 恭子	第二内科	700,000	補委 日本学術振興会
大動脈弁狭窄症発症におけるCircular RNA ITCHの機能解明	大瀧 陽一郎	第一内科	1,100,000	補委 日本学術振興会
EITとDynamic CTを用いて肺障害の程度と換気の関連性を解明する	小野寺 悠	麻酔科	200,000	補委 日本学術振興会
内耳細胞における小胞体ストレス下の脂質代謝酵素を解析し、感音難聴の原因を解明する	松井 祐興	耳鼻咽喉科	1,000,000	補委 日本学術振興会
自己幹細胞誘導因子を用いた新しい顔面神経麻痺再生治療法の開発	杉山 元康	耳鼻咽喉科	900,000	補委 日本学術振興会
細胞外小胞を介した胆道系恒常性維持システムとその破綻による肝疾患病態形成	上野 義之	第二内科	2,600,000	補委 日本学術振興会

小計12

レビー小体病の病態修飾 に關与する遺伝子の同定	小林 良太	精神科	700,000	補 委	日本学術振興会
オキシトシンとバソプレシ ン機能が愛着様式とパー ソナリティ傾向に与える影 響	大谷 浩一	精神科	300,000	補 委	日本学術振興会
石灰化大動脈弁狭窄症 の発症抑制における長寿 遺伝子Sirt-1の役割解明	渡邊 哲	第一内科	1,000,000	補 委	日本学術振興会
炎症後色素沈着の病態 解明と新規治療法の開 発:モデルマウスを使用し た解析	鈴木 民夫	皮膚科	1,100,000	補 委	日本学術振興会
分子署名に基づいた血中 循環腫瘍細胞の細分類 化と腫瘍集学的治療の精 密化への臨床応用	元井 冬彦	第一外科	1,200,000	補 委	日本学術振興会
周術期管理における低酸 素応答と免疫応答を指標 とした生体侵襲回復能の 評価	川前 金幸	麻酔科	1,000,000	補 委	日本学術振興会
EGFRキナーゼ阻害剤を 用いた膠芽腫治療戦略を 新規アプローチで「再」開 発する	鈴木 修平	腫瘍内科	1,400,000	補 委	日本学術振興会
新規免疫療法治療効果 予測因子としてのGPI-80 を用いたMDSCの発現・機 能解析	加藤 智幸	泌尿器科	1,100,000	補 委	日本学術振興会
分子サブタイプとメタボロミ クスに基づく尿路上皮癌 の診断・治療標的分子の 探索	土谷 順彦	泌尿器科	1,000,000	補 委	日本学術振興会
サリバオミクス解析による 唾液を用いた口腔癌スク リーニングに関する研究	飯野 光喜	歯科口腔・形成外科	1,200,000	補 委	日本学術振興会
小児がん患者における鉄 代謝調節因子の遺伝的 背景の解明	目黒 亨	小児科	1,000,000	補 委	日本学術振興会
肥満関連大腸発がんにお けるTET2の関与～代謝と 大腸発がんを繋ぐ分子機 序の解明～	今 孝志	第二内科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
新規白斑モデルマウスに おけるビタミンD3の色素 再生機構の解析	阿部 優子	皮膚科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
画像診断によるグリオブラ ストーマ腫瘍幹細胞の局 在評価	松田 憲一朗	脳神経外科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
サルコイドーシスぶどう膜 炎におけるバイオマー カーとしてのmicroRNAの 検討	金子 優	眼科	1,400,000	補 委	日本学術振興会
リン酸化酵素阻害剤CEP- 1347による網膜芽細胞増 殖抑制機序の解明	富樫 敬太	眼科	1,400,000	補 委	日本学術振興会
内有毛細胞・蝸牛神経間 シナプスをターゲットとし た聴覚再生治療の新規開 発	欠畑 誠治	耳鼻咽喉科	7,600,000	補 委	日本学術振興会

肥満、代謝異常によるRNA転写後制御の変調を介した新しい大腸発がん機序の解明	佐々木 悠	第二内科	1,000,000	補委	日本学術振興会
臓器透明化技術による肝内神経支配と慢性肝疾患病態形成機序の解明	水野 恵	第二内科	1,500,000	補委	日本学術振興会
高血圧性心疾患発症における1次線毛構成タンパク質NPHP4の機能解明	高橋 大	第一内科	1,500,000	補委	日本学術振興会
心腎症候群発症における腎尿細管由来セマフォリン3Cの機能解明	渡辺 昌文	第一内科	1,800,000	補委	日本学術振興会
本邦における遺伝性巣状分節性糸球体硬化症の原因遺伝子変異プロファイルの確立	橋本 多恵子	小児科	1,300,000	補委	日本学術振興会
The role of inflammasome in steroid refractory graft-versus-host disease after allogeneic stem cell transplantation	東梅 友美	第三内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
膠芽腫の再発形式に関与する幹細胞マーカー発現変化の解明	園田 順彦	脳神経外科	1,100,000	補委	日本学術振興会
低侵襲な中耳粘膜再生技術による中耳真珠腫根治へ向けての研究	伊藤 吏	耳鼻咽喉科	1,600,000	補委	日本学術振興会
亜鉛徐放性子タンと歯髄幹細胞の骨形成メカニズムの解明と顎骨再建への応用	遊佐 和之	歯科口腔外科	1,500,000	補委	日本学術振興会
心不全・不整脈の悪性サイクルの病態解明と治療介入	有本 貴範	第一内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
遠隔診療システムを用いた多職種ネットワーク心臓リハビリの確立	沓澤 大輔	第一内科	1,800,000	補委	日本学術振興会
機械学習を用いた潰瘍性大腸炎の腸内細菌叢解析～病態解明と治療反応予測を目指して～	八木 周	第二内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
上部消化管穿孔への非放射性Xe・Kr気体造影剤を使用したCT撮影法の基礎的検討	平賀 利匡	放射線診断科	2,600,000	補委	日本学術振興会
膵癌organoidを用いた進行度特異的な遺伝子解析および診断マーカーの探索研究	角田 道彦	第二内科	700,000	補委	日本学術振興会
膵液内cfDNAを用いたゲノムシーケンスによるIPMN組織亜型の分子病理学的解析	小林 敏一	第二内科	1,400,000	補委	日本学術振興会
オルガノイド培養による原発性硬化性胆管炎の細胞外小胞を介した新規炎症機序の解明	勝見 智大	第二内科	700,000	補委	日本学術振興会

SASH1遺伝子変異による 遺伝性色素異常症:モデル マウスの作製と機能解 析	荒木 勇太	皮膚科	1,400,000	補 委	日本学術振興会
人工心肺で生じる回路圧 上昇に白血球由来細胞 外DNAが関与しているか どうかの検討	八島 望	麻酔科	900,000	補 委	日本学術振興会
腎癌におけるアドレナリン 受容体B2の機能解析と新 規治療標的の開発	菅野 秀典	泌尿器科	1,500,000	補 委	日本学術振興会
腎癌におけるアミノ酸トラ ンスポーターを標的とした 新規治療標的の開発	山岸 敦史	泌尿器科	1,500,000	補 委	日本学術振興会
HMGB1を用いたhidden hearing lossにおける治療 法の開発	寺田 小百合	耳鼻咽喉科	900,000	補 委	日本学術振興会
未熟児網膜症の疫学研 究(多施設研究)	武田 祐介	眼科	2,400,000	補 委	日本学術振興会
山形県における増殖糖尿 病網膜症患者長期経過 観察システムとデータ ベースの構築	西 勝弘	眼科	800,000	補 委	日本学術振興会
肝細胞増殖因子の増強に より皮弁生着成績の向上 を図る実験的研究	菅 剛史	歯科口腔・形成外科	800,000	補 委	日本学術振興会
唾液のマルチオミックス解 析による歯周病スクリー ニングマーカーの探索研究	枝松 薫	歯科口腔・形成外科	1,100,000	補 委	日本学術振興会
山形で、がんゲノム時代 のがん診療と研究に触れ よう ~実際の患者さんの 目線で~	鈴木 修平	腫瘍内科	490,000	補 委	日本学術振興会
Cochlear synaptopathyに 対する新規聴覚再生治療 法の確立	欠畑 誠治	耳鼻咽喉科	5,300,000	補 委	日本学術振興会
乳がん骨転移の潜在期に おいて骨微小環境でがん 細胞が生存するメカニズ ムの解析	二口 充	病理診断科	1,000,000	補 委	日本学術振興会

小計12

計 57

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Sato K, Inoue S, Igarashi A, et al.	第一内科	Effect of Iron Deficiency on a Murine Model of Smoke-induced Emphysema.	Am J Respir Cell Mol Bio. 2020 May;62(5):588-597	Original Article
2	Otaki Y, Watanabe T, Konta T, et al.	第一内科	Impact of hyperuricemia on mortality related to aortic diseases: a 3.8-year nationwide community-based cohort study.	Sci Rep. 2020 Aug ;10(1):14281.	Original Article
3	Otaki Y, Watanabe T, Konta T, et al.	第一内科	Impact of calculated plasma volume status on all-cause and cardiovascular mortality: 4-year nationwide community-based prospective cohort study.	PLoS One. 2020 Aug 20(E Only);15(8):e0237601.	Original Article
4	Watanabe K, Watanabe T, Otaki Y, et al.	第一内科	Impact of plasma xanthine oxidoreductase activity in patients with heart failure with preserved ejection fraction.	ESC Heart Fail. 2020 Aug;7(4):1735-1743.	Original Article
5	Goto J, Otaki Y, Watanabe T, et al.	第一内科	HECT (Homologous to the E6-AP Carboxyl Terminus)-Type Ubiquitin E3 Ligase ITCH Attenuates Cardiac Hypertrophy by Suppressing the Wnt/ β -Catenin Signaling Pathway.	Hypertension. 2020 Dec;76(6):1868-1878.	Original Article
6	Arimoto T, Watanabe E, Kohno R, et al.	第一内科	Impact of a poor functional capacity on the clinical outcomes in patients with a pacemaker implantation -Results from the Japanese Heart Rhythm Society Registry.	J Arrhythm. 2020 Dec;37(1):182-188P.	Original Article
7	Igarashi A, Inoue S, Shibata Y, et al.	第一内科	Examination of predictable factors of perioperative respiratory complications by preoperative forced oscillation technique parameters.	EXCLI J. 2020 Dec;19:1610-1614.	Original Article
8	Otaki Y, Watanabe T, Konta T, et al.	第一内科	Impact of Chronic Kidney Disease on Aortic Disease-related Mortality: A Four-year Community-Based Cohort Study.	Intern Med. 2021;60(5):689-697.	Original Article
9	Machida H, Inoue S, Shibata Y, et al.	第一内科	Thymus and activation-regulated chemokine (TARC/CCL17) predicts decline of pulmonary function in patients with chronic obstructive pulmonary disease.	Allergol Int.2021 Jan;70(1):81-88.	Original Article
10	Sato K, Inoue S, Ishibashi Y, et al.	第一内科	Association between low mean corpuscular hemoglobin and prognosis in patients with exacerbation of chronic obstructive pulmonary disease.	Respir Investig. 2021 Feb	Original Article
11	Kurokawa T, Arimoto T, Hashimoto N, et al.	第一内科	Visualization of epicardial lead infection using 18 F-FDG-PET/CT imaging.	J Arrhythm.2021 Feb 13;37(2):458-459.	Case report

小計11件

12	Takahashi T, Watanabe T, Otaki Y, et al.	第一内科	Prognostic significance of the controlling nutritional (CONUT) score in patients with acute coronary syndrome.	Heart Vessels.2021 Feb Online ahead of print.	Original Article
13	Watanabe K, Watanabe T, Otaki Y, et al.	第一内科	Impact of pre-operative coronary artery disease on the clinical outcomes of patients with aortic aneurysms.	Heart Vessels. 2021 Mar;36(3):308-314.	Original Article
14	Machida H, Inoue S, Shibata S, et al.	第一内科	The Incidence and Risk Analysis of Lung Cancer Development in Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease: Possible Effectiveness of Annual CT-Screening.	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis.2021 Mar;16:739,749.	Original Article
15	Sato M, Inoue S, Arao T, et al.	第一内科	Undifferentiated pleomorphic sarcoma in the anterior mediastinum with a rapidly progressive course: A case report	EXCLI J.2020.Aug;19:1161-1165	Case report
16	Masakuni Shoji, Yu Sasaki, Yasuhiko Abe, et al.	第二内科	Characteristics of the gut microbiome profile in obese patients with colorectal cancer	JGH Open. 2021 Mar;5(4):498-507	Original Article
17	Abe Y., Sasaki Y., Kon T., et al.	第二内科	Linked Color Imaging of Eosinophilic Esophagitis.	Intern Med. 2020(E Only);59:1573-4.10.2169/internalmedicine.4381-19	Review
18	Ueno Y., Seno H.	第二内科	Steeper steps and pledge for inevitable responsibilities. J Gastroenterol.	J Gastroenterol. 2020;55:1-3.10.1007/s00535-019-01641-2	Review
19	Ikeda C., Makino N., Matsuda A., et al.	第二内科	Signet-ring cell carcinoma of the ampulla of Vater: a case diagnosed via repeated biopsies.	Clin J Gastroenterol. 2020(E Only);13:607-14.10.1007/s12328-020-01097-5	Case report
20	Onozato Y., Sasaki Y., Abe Y., et al.	第二内科	Cronkhite-Canada Syndrome Associated with Gastric Outlet Obstruction and Membranous Nephropathy: A Case Report and Review of the Literature.	Intern Med. 2020;59:2871-7.10.2169/internalmedicine.5278-20	Case report
21	Haga H., Sato H., Koseki A., et al.	第二内科	A machine learning-based treatment prediction model using whole genome variants of hepatitis C virus.	PLoS One. 2020 Nov(オンライン); 15:e0242028.10.1371	Original Article
22	Ikeda C., Haga H., Makino N., et al.	第二内科	Utility of Claudin-3 in extracellular vesicles from human bile as biomarkers of cholangiocarcinoma.	Sci Rep. 2021 Jan(今はオンライン、今後掲載予定);11:1195. doi:10.1038/s41598-021-81023-y.	Original Article
23	Kon T., Abe Y., Sasaki Y., et al.	第二内科	Clinical features of esophageal eosinophilia according to endoscopic phenotypes.	Intern Med. 2020 Dec;59:2971-2979. doi:10.2169/internalmedicine.4447-20.	Original Article
24	Nishise S., Takeda Y., Abe Y., et al.	第二内科	Physiological heating augments the anti-inflammatory reactions during granulocyte/monocyte apheresis: A in vitro study.	Ther Apher Dial. 2020 Oct(今はオンライン、今後掲載予定); doi:10.1111/1744-9987.13600.	Original Article

小計13件

25	Sakuta K., Sasaki Y., Abe Y., et al.	第二内科	Somatic alterations and mutational burden are potential predictive factors for metachtonous development of early gastric cancer.	Sci Rep. 2020 Dec(今は オンライン、 今後掲載予定);10(1) doi: 10.1038/s41598- 020-79195-0.	Original Article
26	Yagi M., Sasaki Y., Abe Y., et al.	第二内科	Association between high levels of circulating Chemerin and colorectal adenoma in men.	Digestion. 2020;101:571- 578.	Original Article
27	Ohta Y, Yamashita T, Nomura E, et al.	第三内科	Improvement of a decreased anti-oxidative activity by edaravone in amyotrophic lateral sclerosis patients	J Neurol Sci. 2020 Aug 15;415:116906	Original Article
28	Ohta Y, Ikegami K, Sato K, et al.	第三内科	Clinical anticipation of disease onset in a Japanese Asidan (SCA36) family	J Neurol Sci. 2020 Sep 15;416:117043	Case report
29	Ohta Y, Shimada H, Ikegami K, et al.	第三内科	A case of Kii amyotrophic lateral sclerosis/parkinsonism dementia complex presenting as progressive parkinsonism with corresponding tau imaging	Neurology and Clinical Neuroscience. 2021 Jan; 9:124-126	Case report
30	Ohta Y, Ikegami K, Sato K, et al.	第三内科	Repeat sizes of NOP56 gene in a Japanese Asidan (SCA36) family with clinical anticipation	J Neurol Sci. 2020 Nov 15;418:117150	Letter
31	Yanagiya R, Suzuki T, Nakamura S, et al.	第三内科	TAFRO Syndrome Presenting with Retroperitoneal Panniculitis-like Computed Tomography Findings at Disease Onset	Intern Med. 2020 Apr; 59(7):997-1000	Case report
32	Yanagiya R, Ishikawa D, Toubai T, et al.	第三内科	A Rare Chromosome Abnormality with der(16)t(1;16)(q12;q11.2) in Blast Crisis of Chronic Myeloid Leukemia	Case Rep Oncol. 2020 Aug;13(2):1020-1025	Case report
33	Yanagiya R, Kanouchi K, Toubai T, et al.	第三内科	Plasma Exchange as an Initial Treatment for Severe Bleeding Induced by Acquired Factor V Deficiency: A Case Report and Mini Literature Review	Acta Haematol. 2021 Jan; 144(1):82-87	Case report
34	Toubai T, Magenau J	第三内科	Immunopathology and biology-based treatment of steroid-refractory graft-versus-host disease	Blood. 2020 Jul 23;136(4):429-440	Review
35	Yamamoto M, Suzuki I, Saitou K, et al.	第三内科	Impact of comorbidity and relative dose intensity on outcomes in diffuse large B-cell lymphoma patients treated with R-CHOP	J Cancer Res Clin Oncol . 2020 Nov;146(11):2995- 3002	Original Article
36	Sato H, Kawasaki N, Kawasaki M, et al.	小児科	Three Consecutive Cases of Familial Hemophagocytic Lymphohistiocytosis, Including a Case Due to Maternal Uniparental Disomy	J Pediatr Hematol Oncol. 2020 Nov(E Only);42(8):e819-e821.	Case report
37	Yamamoto S, Nagamori T, Komatsu S, et al.	小児科	A case of congenital herpes simplex virus infection diagnosed at 8 months of age.	Brain Dev. 2020;42(2): 369-372.	Case report

小計13件

38	Shirata T, Suzuki A, Matsumoto Y, et al.	精神科	Interrelation between increased BDNF gene methylation and high sociotropy, a personality vulnerability factor in cognitive model of depression.	Neuropsychiatric Disease and Treatment. 2020 May; 16: 1257-1263.	Original Article
39	Hayashi H, Kobayashi R, Kawakatsu S, et al.	精神科	Utility of easy Z-score imaging system-assisted SPECT in detecting onset age-dependent decreases in cerebral blood flow in the posterior cingulate cortex, precuneus, and parietal lobe in Alzheimer's disease with amyloid accumulation.	Dementia and Geriatric Cognitive Disorders Extra. 2020 Jun; 10(2): 63-68.	Original Article
40	Otani K, Suzuki A, Matsumoto Y, et al.	精神科	Implication of core beliefs about negative-self in neuroticism.	International Journal of Psychiatry in Clinical Practice. 2020 Sep; 24(3): 278-283.	Original Article
41	Kobayashi R, Hayashi H, Kawakatsu S, et al.	精神科	Detection of reduced dopamine transporter availability by 123I-N-omega-fluoropropyl-2-beta-carbomethoxy-3-beta (4-iodophenyl) nortropine single-photon emission computed tomography in a patient of frontotemporal dementia with motor neuron disease.	Psychogeriatrics. 2020 Sep; 20(5): 799-801.	Original Article
42	Kobayashi R, Hayashi H, Kawakatsu S, et al.	精神科	Phenoconversion from rapid eye movement sleep behaviour disorder to multiple system atrophy is predicted by abnormal dopamine transporter imaging combined with normal 123I-metaiodobenzylguanidine myocardial scintigraphy: a case report.	Psychogeriatrics. 2020 Sep; 20(5): 807-809.	Original Article
43	Noto K, Suzuki A, Shirata T, et al.	精神科	Mu-opioid receptor polymorphism moderates sensitivity to parental behaviors during characterization of personality traits.	Neuropsychiatric Disease and Treatment. 2020 Sep; 16: 2161-2167.	Original Article
44	Kobayashi R, Hayashi H, Kawakatsu S, et al.	精神科	Recognition of the coronavirus disease 2019 pandemic and face mask wearing in patients with Alzheimer's disease: an investigation at a medical centre for dementia in Japan.	Psychogeriatrics. 2020 Nov; 20(6): 923-925.	Original Article
45	Kobayashi R, Naruse H, Koyama S, et al.	精神科	Familial dementia with Lewy bodies with VPS13C mutations.	Parkinsonism and Related Disorders. 2020 Dec; 81: 31-33.	Original Article
46	Muraosa H, Suzuki A, Noto K, et al.	精神科	Musical hallucinations induced by conventional doses of paroxetine.	The American Journal of Case Reports. 2020 Dec; 21(E Only): e926735.	Original Article
47	Hayashi H, Kobayashi R, Morioka D, et al.	精神科	Improvement of Somatic Delusions with Altered Regional Cerebral Blood Flow Following Electroconvulsive Therapy in a Patient with Schizoaffective Disorder.	The American Journal of Case Reports. 2021 Mar; 22(E Only): e929800	Original Article
48	Abe Y, Hozumi Y, Okamura K, et al.	皮膚科	Expression of discoidin domain receptor 1 and E-cadherin in epidermis affects melanocyte behavior in rhododendrol-induced leukoderma mouse model.	J Dermatol. 2020 Nov; 47(11): 1330-1334	Original Article
49	Okamura K, Abe Y, Naka I, et al.	皮膚科	Genome-wide association study identifies CDH13 as a susceptibility gene for rhododendrol-induced leukoderma.	Pigment Cell Melanoma Res. 2020 Nov; 33(6): 826-833	Original Article

50	Nakano S, Abe Y, Nakajima K, et al.	皮膚科	Establishment of a mouse model for post-inflammatory hyperpigmentation.	Pigment Cell Melanoma Res. 2021 Jan; 34(1): 101-110	Original Article
51	Araki Y, Okamura K, Saito T, et al.	皮膚科	Five novel mutations in SASH1 contribute to lentiginous phenotypes in Japanese families.	Pigment Cell Melanoma Res. 2021 Mar; 34(2): 174-178	Original Article
52	Okamura K, Suzuki T	皮膚科	Current landscape of Oculocutaneous Albinism in Japan.	Pigment Cell Melanoma Res. 2021 Mar; 34(2): 190-203	Original Article
53	Hayashi M, Nakano H, Sawamura D, et al.	皮膚科	Japanese case of Papillon-Lefèvre syndrome with novel compound heterozygous mutations.	J Dermatol. 2020 Aug(E Only); 47(8): e293-e295	Letter
54	Saito T, Hayashi M, Yaguchi Y, et al.	皮膚科	Case of phaeohyphomycosis caused by Cladophialophora boppii successfully treated with local hyperthermia and systemic terbinafine.	J Dermatol 2020 Jul(E Only); 47(7): e250-e251	Letter
55	Saito T, Okamura K, Funasaka Y, et al.	皮膚科	Identification of two novel mutations in a Japanese patient with Hermansky-Pudlak syndrome type 5.	J Dermatol 2020 Nov(E Only); 47(11): e392-e393	Letter
56	Nagatani K, Okamura K, Katagiri K, et al.	皮膚科	Report of two Japanese patients with piebaldism including a novel mutation in KIT.	J DERMATOL. 2021 Feb(E Only); 48(2): e94-e95	Letter
57	Shibata A, Saji S, Kamiya K, Yasumura S	放射線診断科	Trend in Cancer incidence and mortality in Fukushima between 2008 and 2015.	J Epidemiol. 2020 Sep 19. doi: 10.2188/jea.JE20200202. Online ahead of print.	Original Article
58	Tosimiro Konno, Toshitada Hiraka, Masafumi Kanoto, et al.	放射線診断科	Pancreatic perfusion imaging method that reduces radiation dose and maintains image quality by combining volumetric perfusion CT with multiphasic contrast enhanced-CT	Pancreatology. 2020;20: 1406-1412	Original Article
59	Yasuhiro Sugai, Yuuki Toyoguchi, Masafumi Kanoto, et al.	放射線診断科	Clinical and image features: large-vessel vasculitis after granulocyte colony stimulating factor administration	Acta Radiol. 2020;284185120931685.	Original Article
60	Nemoto K, Kawashiro S, Toh Y, et al.	放射線治療科	Comparison of the effects of radiotherapy doses of 50.4 Gy and 60 Gy on outcomes of chemoradiotherapy for thoracic esophageal cancer: subgroup analysis based on the Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan from 2009 to 2011 by the Japan Esophageal Society	Esophagus. 2020 17(2):122-126.	Original Article
61	Yasuhito Hagiwara, Shigeru Yamada, Yuka Isozaki, Yasumitsu	放射線治療科	Efficacy and feasibility of re-irradiation using carbon ions for pancreatic cancer that recurs after carbon-ion radiotherapy	Clinical and Translational Radiation Oncology. January 2021; 26: 24-29	Original Article
62	Hagiwara, Yuka Nakayama, Shigehiro Kudo, et al.	放射線治療科	Nationwide survey of radiation therapy in Japan for lung cancer complicated with interstitial lung disease	Journal of Radiation Research. July 2020; 61(4): 563-574.	Original Article

63	Yasuhito Hagiwara, Kenji Nemoto, Ibuki Ota, et	放射線治療科	Expression of Biomarkers (CD44, COX-2, TWIST, VEGF-C and LOX) in Esophageal Cancer: Implication for Prophylactic Radiation Field	International Journal of Clinical Oncology and Cancer Research. March 2021; 6(1): 10-16	Original Article
64	Ono T, Wada H, Ishikawa H, et al.	放射線治療科	Proton beam therapy is a safe and effective treatment in elderly patients with esophageal squamous cell carcinoma	Thorac Cancer 2020; 11(8): 2170-2177. doi: 10.1111/1759-7714.13524.	Original Article
65	Ono T, Yamamoto N, Nomoto A, et al.	放射線治療科	Long term results of single-fraction carbon-ion radiotherapy for non-small cell lung cancer. Cancers.	Cancers. 2021(E Only); 13(1): 112. https://doi.org/10.3390/cancers13010112 .	Original Article
66	Ono T.	放射線治療科	Review of clinical results of charged-particle therapy for esophageal cancer	Esophagus. 2020. doi: 10.1007/s10388-020-00759-0.	Review
67	Motoi F, Unno M.	第一外科	Adjuvant and neoadjuvant treatment for pancreatic adenocarcinoma.	Jpn J Clin Oncol. 2020 May 5;50(5):483-489	Review
68	Motoi F	第一外科	Precise anatomical resection based on structures of nerve and fibrous tissue around the superior mesenteric artery for mesopancreas dissection in pancreaticoduodenectomy for pancreatic cancer.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2021 Feb(E Only);28(2):e6-e7	Letter
69	Yuya Ashitomi, Mitsuhiro Yano, Michiaki Hirotsu	第一外科	Undifferentiated carcinoma of the transverse colon with rhabdoid features tha developed during treatment of non-small cell lung carcinoma with pembrolizumab: a case report	Surgical Case Reports.(2020)6:196	Case report
70	Oshio, Yukiko Oshima, Gen Yunome, et al.	第一外科	Potential urinary function benefits of initial robotic surgery for rectal cancer in the introductory phase	Journal of Robotic Surgery.(2021)March.	Original Article
71	Uchida T, Kuroda Y, Yamashita A, et al.	第二外科	Solo Smart stentless bioprosthesis for extensive aortic annular defects caused by infective endocarditis.	J Card Surg. 2020;35(4):897-900	Original Article
72	Nakamura K, Uchida T, Hamasaki A, et al.	第二外科	Batista Procedure with the Aid of Intraoperative Epicardial Echocardiography.	Braz J Cardiovasc Surg. 2020;35(2):225-228	Original Article
73	Oba E, Aung NY, Ohe R, et al.	第二外科	The distribution of macrophage subtypes and their relationship to bone morphogenetic protein 2 in calcified aortic valve stenosis.	Am J Transl Res. 2020;12(5):1728-1740	Original Article
74	Kuroda Y, Togashi H, Uchida T, et al.	第二外科	Oxidative stress evaluation of skeletal muscle in ischemia-reperfusion injury using enhanced magnetic resonance imaging.	Sci Rep. 2020;10(1):10863-10863	Original Article
75	Uchida T, Yamashita A, Kuroda Y, et al.	第二外科	Hybrid operation for a brachiocephalic aneurysm in a young woman with Loey-Dietz syndrome.	Heart Lung Circ. 2020;29(11):e273-e275	Original Article

小計13件

76	Uchida T, Kuroda Y, Sadahiro M	第二外科	Primary biatrial cardiac rhabdomyosarcoma. Braz J Cardiovasc Surg.	Braz J Cardiovasc Surg. 2020;35(3):399-401	Case report
77	Takamori S, Oizumi H, Suzuki J, et al.	第二外科	A novel cause of late bleeding after lobectomy: Erosion of the bronchial staple-line in the chest wall.	J Thorac Cardiovasc Surg Techniqs. 2020;3:338-340	Case report
78	Nakai S, Hamasaki A, Uchida T	第二外科	Arterioplasty using gastroepiploic artery patch for common femoral artery occlusive disease.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2020;31(1):138-139	Case report
79	Kobayashi K, Uchida T, Kuroda Y, et al.	第二外科	Right-sided double valve replacement in an adult patient who underwent surgery for pulmonary stenosis in childhood: a case report.	J Cardiothorac Surg. 2020;15(1):170-170	Case report
80	Uchida T, Kobayashi K, Nakai S, et al.	第二外科	Bare stent removal in open thoraco-abdominal aortic repair after endovascular treatment with the PETTICOAT technique.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2020;31(2):271-273	Case report
81	Uchida T, Hamasaki A, Kuroda Y, et al.	第二外科	Gerbode defect and left ventricular-aortic discontinuity in prosthetic valve endocarditis.	J Artif Organs. 2020;23(3):288-291	Case report
82	Uchida T, Kuroda Y, Ohba E	第二外科	Ruptured aneurysm of coronary arteriovenous fistula without aneurysmal coronary artery.	J Card Surg. 2020;35(9):2403-2406	Case report
83	Kuroda Y, Uchida T, Hamasaki A, et al.	第二外科	Treatment strategy for severe airway stenosis due to a thoracic aortic aneurysm.	Ann Thorac Surg. 2020;110(3):e195-e197	Case report
84	Nakai S, Uchida T, Kuroda Y	第二外科	Spinal cord ischemia following endovascular repair of infrarenal abdominal aortic aneurysm.	Ann Vasc Dis. 2020;13(3):335-338	Case report
85	Kobayashi K, Uchida T, Kuroda Y, et al.	第二外科	Double left brachiocephalic vein with a preaortic course: an extremely rare venous anomaly.	Eur J Cardiothorac Surg. 2020;58(4):872-872	Case report
86	Kuroda Y, Uchida T, Hamasaki A	第二外科	Internal thoracic artery pseudoaneurysm after redo aortic root replacement.	Cardiovasc J Afr. 2020;31(5):281-282	Case report
87	Kobayashi K, Uchida T, Kuroda Y, et al.	第二外科	Aortobifemoral bypass grafting with reversed L-shaped technique for endograft infection.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2020;26(6):369-372	Case report
88	Takamori S, Oizumi H, Suzuki J, et al.	第二外科	Long-term survival with multiple metastasectomies for pulmonary osteosarcoma: a case report.	Surg Case Rep. 2021;7(1):22-22	Case report

小計13件

89	Takamori S, Takeshi A, Suzuki K, et al.	第二外科	Uniportal video-assisted thoracoscopic lobectomy for pulmonary mucormycosis in a pediatric patient.	Journal of Pediatric Surgery Case Reports. 2021;65: doi.org/10.1016/j.epsc.2020.101769	Case report
90	Yamashita A, Uchida T, Kuroda Y, et al.	第二外科	Healthy-side renal vein drainage during resection of kidney cancer extending to the inferior vena cava.	Yamagata Med J. 2021;39(1):61-64	Case report
91	Uchida T, Yamashita A, Kuroda Y	第二外科	Endovascular treatment for type B aortic dissection in a patient with Loeys-Dietz syndrome accompanied by potential lung cancer.	Yamagata Med J. 2021;39(1):71-75	Case report
92	Kikuchi Z, Shibahara I, Yamaki T, et al.	脳神経外科	TERT promoter mutation associated with multifocal phenotype and poor prognosis in patients with IDH wild-type glioblastoma	Neuro oncol Adv.2020.9(E Only);2(1).	Original Article
93	Itagaki H, Kokubo Y, Kawanami K, et al.	脳神経外科	Arterial spin labeling magnetic resonance imaging at short post-labeling delay reflects cerebral perfusion pressure verified by oxygen-15-positron emission tomography in cerebrovascular stenocclusive disease	Acta Radiol. 2021 2;62(2):225-233.	Original Article
94	Ito M, Sato S, Sonoda Y	脳神経外科	A Patient with a Type I Split Cord Malformation and an Open Myelomeningocele without Advanced Lower Limb Paresis: A Case Report and a Review of the Literature	NMC Case Report Journal.2021.3(E Only);8(1)75-78.	Case report
95	Ito J, Takakubo Y, Monma R, et al.	整形外科	Disassembly of bilateral bipolar heads within 10 years after hip hemiarthroplasties for avascular necrosis of femoral heads	Modern Rheumatology Case Reports. 2020; 4(1): 147-151	Original Article
96	Harada M, Mura N, Takahara M, et al.	整形外科	Early detection and treatment of complications in the fingers and hand after arthroscopic rotator cuff repair	JSES Int. 2020 7; 4(3): 612-618.	Original Article
97	Harada M, Takahara M, Maruyama M, et al.	整形外科	Comparison of radiographic and ultrasonographic findings of medial elbow laxity in high school baseball players.	Open Orthop J. 2020; 14: 73-81	Original Article
98	Maruyama M, Le W, Thio T, et al.	整形外科	The effect of mesenchymal stem cell sheets on early healing of the achilles tendon in rats.	Tissue Eng Part A. 2020; 26(3-4): 206-213	Original Article
99	Maruyama M, Lin T, Kaminow NI, et al.	整形外科	The efficacy of core decompression for steroid associated osteonecrosis of the femoral head in rabbits.	J Orthop Res. 2020 23. doi: 10.1002/jor.24888. Online ahead of print.	Original Article
100	Maruyama M, Rhee C, Utsunomiya T, et al.	整形外科	Modulation of the inflammatory response and bone healing.	Front Endocrinol (Lausanne). 2020; 11: 386.	Original Article
101	Narita A, Suzuki A, Nakajima T, et al.	整形外科	Assessing an alpha-defensin lateral flow device for diagnosing septic arthritis: reporting on a false-negative case and a false-positive case.	Mod Rheumatol Case Rep. 2020; 4(1): 156-160	Original Article

小計13件

102	Nemoto N, Takeda Y, Nara H, et al.	整形外科	Analysis of intestinal immunity and flora in a collagen-induced mouse arthritis model: differences during arthritis progression.	Int Immunol. 2020; 32(1): 49-56	Original Article
103	Takakubo Y, Imamura Y, Tezuka H, et al.	整形外科	Rapid disappearing of gouty tophi of foot due to reducing urate pool by resection of huge gouty tophi of opposite foot in the patient with hyperuricemia; a case of report.	Mod Rheu matolCase Rep. 2020; 4(1): 116-121	Original Article
104	Takahara M, Maruyama M, Uno T, et al.	整形外科	Progression of epiphyseal cartilage and bone pathology in surgically treated cases of osteochondritis dissecans of the elbow.	The American journal of sports medicine. 2020; doi: 10.1177/0363546520969423. Online ahead of print. 1-10	Original Article
105	Takehara I, Igarashi H, Kawagoe J, et al.	産科婦人科	Impact of endoplasmic reticulum stress on oocyte aging mechanisms. Mol Hum Reprod.2020;doi:10.1093/molehr/gaaa040	Mol Hum Reprod.2020	Original Article
106	Sugiyama A, Ohta T,Obata M, et al.	産科婦人科	xCT inhibitor sulfasalazine depletes paclitaxel-resistant tumor cells through ferroptosis in uterine serous carcinoma.	Oncol Letters 20 May 27,2020:2689-2700	Original Article
107	Fukase M,Ohta T,Watanabe N, et al.	産科婦人科	Squamous cell carcinoma arising from a mature cystic teratoma of the ovary: Successful treatment with carboplatin,paclitaxel,and bevacizumab.	Gynecol Oncol Rep.2020 Aug 26;34 100632	Original Article
108	Nishitsuka K, Nishi K, Namba H, et al.	眼科	Peripheral Cystoid Degeneration Finding Using Intraoperative Optical Coherence Tomography in Rhegmatogenous Retinal Detachment	Clin Ophthalmol. 2021 Mar 18;15:1183-1187.	Original Article
109	Nishitsuka K, Nishi K, Namba H, et al.	眼科	Quantification of the peripheral vitreous after vitreous shaving using intraoperative optical coherence tomography	BMJ Open Ophthalmol. 2021 Feb 17;6(1):e000605.	Original Article
110	Hayashi S, Suzuki I, Inamura A, et al.	眼科	Effectiveness of the Spot Vision Screener in screening 3-year-old children with potential amblyopia in Japan	Jpn J Ophthalmol. 2021 Mar 1.	Original Article
111	Nishitsuka K, Kawasaki R, Yamakiri K, et al.	眼科	Preoperative factors to select vitrectomy or scleral buckling for retinal detachment in microincision vitrectomy era.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2020 Sep;258(9):1871-1880.	Original Article
112	Namba H, Sugano A, Murakami T, et al.	眼科	Age-Related Changes in Astigmatism and Potential Causes	Cornea.2020 Nov;39 Suppl 1:S34-S38.	Original Article
113	Nishi K, Nishitsuka K, Yamamoto T, et al.	眼科	Factors correlated with visual outcomes at two and four years after vitreous surgery for proliferative diabetic retinopathy.	Plos One.2021 Jan; 16(1):e0244281.	Original Article
114	Togashi K, Okada M, Suzuki S, et al.	眼科	Inhibition of Retinoblastoma Cell Growth by CEP1347 Through Activation of the P53 Pathway	Anticancer Research.2020 Sep;40(9):4961-4968.	Original Article

小計13件

115	Togashi K, Nishitsuka K, Hayashi S, et al.	眼科	Metastatic Orbital Tumor From Breast Ductal Carcinoma With Neuroendocrine Differentiation Initially Presenting as Ocular Symptoms: A Case Report and Literature Review	Frontiers in Endocrinology.2021 Feb;12:	Case report
116	Ito T, Kubota T, Furukawa T, et al.	耳鼻咽喉科	Measurement of the Pediatric and Adult Osseous External Auditory Canal: Implications for Transcanal Endoscopic Ear Surgery.	Otol Neurotol. 2020(E Only); 41(6): e712-e719	Original Article
117	Chiba M, Ito T, Shinkawa C, et al.	耳鼻咽喉科	Consistent removal of hair cells in vestibular end organs by time-dependent transtympanic administration of gentamicin in guinea pigs	J. Neurosci. Methods. 2021(E Only); 351:109049.	Original Article
118	Koizumi Y, Ito T, Mizutani K, et al.	耳鼻咽喉科	Regenerative effect of a ROCK inhibitor, Y-27632, on excitotoxic trauma in an organotypic culture of the cochlea	Front Cell Neurosci. 2020 Nov(E Only); 14: 572434	Original Article
119	Sugiyama M, Ito T, Furukawa T, et al.	耳鼻咽喉科	The effect of insulin-like growth factor 1 on the recovery of facial nerve function in a guinea pig model of facial palsy.	The Journal of Physiological Sciences, 2020(E Only); 70:28,	Original Article
120	Naito S, Kato T, Ichiyonagi O, et al.	泌尿器科	New prognostic model for synchronous metastatic renal cell carcinoma	Int J Urol. 2020; 27(5): 448-456.	Original Article
121	Fukuhara H, Kobayashi T, Takai S, et al.	泌尿器科	External validation of the CHOKAI score for the prediction of ureteral stones: A multicenter prospective observational study	Am J Emerg Med. 2020; 38(5): 920-924.	Original Article
122	Fukuhara H, Nawano T, Kanda A, et al.	泌尿器科	Changes in Muscle Quality and Body Composition 1 Year After Hand-Assisted Laparoscopic Donor Nephrectomy in Living Kidney Donors	Exp Clin Transplant. 2020; 18(6):682-688.	Original Article
123	Nishida H, Fukuhara H, Yamagishi A, et al.	泌尿器科	Living kidney transplantation without perioperative anticoagulation therapy for a patient with heparin-induced thrombocytopenia	IJU Case Rep. 2020(E Only); 3(3): 86-89.	Case report
124	Nishida H, Yamagishi A, Noda D, et al.	泌尿器科	Refractory laryngeal papillomatosis requiring total laryngectomy	Lancet Infect Dis. 2020; 20(7): 874.	Case report
125	Yamagishi A, Ichiyonagi O, Naito S, et al.	泌尿器科	Primary mesenchymal chondrosarcoma of the kidney without HEY1-NCOA2 and IRF2BP2-CDX1 fusion: A case report and review	Oncol Lett. 2020;19(1): 885-891.	Case report
126	Ishikawa S, Kitabatake K, Edamatsu K, et al.	歯科口腔外科	Evaluation of a Semi-Solidifying Liquid Formula for Nasogastric Tube Feeding After Oral and Maxillofacial Surgery.	J Oral Maxillofac Surg. 2020 Apr(E Only);78(4):663.e1-663.e7.	Original Article
127	Ishikawa S, Hiraka T, Kirii K, et al.	歯科口腔外科	Relationship between Standard Uptake Values of Positron Emission Tomography/Computed Tomography and Salivary Metabolites in Oral Cancer: A Pilot Study.	J Clin Med. 2020 Dec 7(E Only);9(12):3958.	Original Article

小計13件

128	Ishikawa S, Yamamori I, Takamori S, et al.	歯科口腔外科	Evaluation of effects of perioperative oral care intervention on hospitalization stay and postoperative infection in patients undergoing lung cancer intervention.	Support Care Cancer. 2021 Jan;29(1):135-143.	Original Article
129	Ishikawa S, Ishizawa K, Tanaka A, et al.	歯科口腔外科	Identification of Salivary Proteomic Biomarkers for Oral Cancer Screening.	In Vivo. 2021 Jan-Feb;35(1):541-547.	Original Article
130	Ishikawa S, Konta T, Susa S, et al.	歯科口腔外科	High Parity Is an Independent Risk Factor for Tooth Loss in Women: A Community-Based Takahata Study in Japan.	Tohoku J Exp Med. 2021 Jan;253(1):77-84.	Original Article
131	kazuyuki Yusa, Shigeo Ishikawa, Hideyuki Yamanouchi,	歯科口腔外科	A case of glandular odontogenic cyst with mandibular segmental resection and secondary reconstruction	Oral Science International. 2020年4月; 196-200.	Case report
132	Iwakami A, Imanishi M, Asato H.	形成外科	Peripheral osteoma of the infraorbital canal.	Arch Plast Surg. 2020 Jul(E Only);47(4):373-374. doi: 10.5999/aps.2020.00276. Epub 2020 Jul 15.	Case report
133	Iwakami A, Takada G, Fukuda N, Asato H.	形成外科	Application of nasal septal cartilage in a combined transorbital and transnasal approach for orbital wall reconstruction.	Arch Plast Surg. 2021 Mar(E Only);48(2):217-218. doi: 10.5999/aps.2020.01312. Epub 2021 Mar 4.	Case report
134	Suzuki S, Yamamoto M, Sanomachi T, et al.	腫瘍内科	Doxazosin, a Classic Alpha 1-Adrenoceptor Antagonist, Overcomes Osimertinib Resistance in Cancer Cells via the Upregulation of Autophagy as Drug Repurposing	Biomedicines. 2020 Aug 5;8(8):273.	Original Article
135	Suzuki S, Okada M, Sanomachi T, et al.	腫瘍内科	Therapeutic targeting of pancreatic cancer stem cells by dexamethasone modulation of the MKP-1-JNK axis	J Biol Chem. 2020 Dec 25;295(52):18328-18342.	Original Article
136	Tomomi Sanomachi, Toshio Hashimoto, Junichiro Hara, et al.	腫瘍内科	Patients with unresectable hormone-positive human epidermal growth factor receptor 2-negative breast cancer who were successfully treated with palbociclib: A case report	米沢市立病院医学雑誌. 2020年03月31日. 39号. 25-31ページ.	Original Article
137	Nakane M	救急科(救急部)	Biological effects of the oxygen molecule in critically ill patients.	Journal of Intensive Care. 2020; 8(1): 95	Review
138	Ohe R., Aung NY., Tamura Y., et al.	病理診断科(病理部)	Diagnostic utility of CD205 in breast cancer: Simultaneous detection of myoepithelial cells and dendritic cells in breast tissue by CD205	Histol Histopathol. 2020/05/00; 35(5):481-488	Original Article
139	Ohe R., Meng H. X., Yamada A., et al.	病理診断科(病理部)	Good prognosis for follicular lymphoma with estrogen receptor α -positive follicular dendritic cells	Hematol Oncol. 2020/08/00;38(3):293-300	Original Article
140	Suzuki K., Ohe R., Kabasawa T., et al.	病理診断科(病理部)	A case of iatrogenic immunodeficiency-associated colonic lymphoma complicating ulcerative colitis	Diagn Pathol. 2020/04/07;15(1):34	Case report

小計13件

141	Urano Y., Ohe R., Yamada A., et al.	病理診断科(病理部)	Other Iatrogenic Immunodeficiency-Associated Lymphoproliferative Disorders, Diffuse Large B-Cell Lymphoma Type, in a Patient with Behçet's Disease Treated with Cyclosporine	Case Rep Oncol. 2020/09/21;13(3):1145-1151	Case report	小計1件
~						計 141 件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別	
1					Original Article	
2					Case report	
3						
~						計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 審査の流れについて記載。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年8回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの定義、委員会の設置、実施方法等について。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年11回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 「人を対象とする医学系研究に関する倫理方針」及び「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」改正に関する説明、倫理審査委員会への申請方法、申請内容の留意点、利益相反管理、研究倫理について。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。



(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

卒後臨床研修修了後の専門医取得に必要な高度先進医療の研修は、大学病院が最も得意とするところである。山形大学では、各診療科が専門医に要求される研修内容に対応して緻密に組まれた独自の専門医養成プログラムを有している。

また、山形大学には県内外の主要な教育病院及び山形県と合同で組織する「蔵王協議会」という組織があり、これにより大学附属病院と関連病院が有機的に結びついた研修が可能である。さらに、我が国の医学部で最初に導入した大学院社会人選抜枠を最大限に利用することにより、市中病院に勤務しながら大学院生として専門医取得のための研修や博士号取得のための研究を行うことができる。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 196人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
上野 義之	内科	教授	33年	
大谷 浩一	精神科	教授	39年	
三井 哲夫	小児科	教授	32年	
貞弘 光章	外科	教授	39年	
園田 順彦	脳神経外科	教授	28年	
菅原 正登	整形外科	講師	18年	
鈴木 民夫	皮膚科	教授	36年	
土谷 順彦	泌尿器科	教授	32年	
山下 英俊	眼科	教授	39年	
欠畑 誠治	耳鼻咽喉科	教授	33年	
鹿戸 将史	放射線科	教授	18年	
永瀬 智	産婦人科	教授	29年	
川前 金幸	麻酔科	教授	38年	
中根 正樹	救急科	准教授	27年	
高木 理彰	リハビリテーション科	教授	34年	
大江 倫太郎	病理	講師	12年	
渡辺 昌文	総合診療	教授	31年	
飯野 光喜	歯科口腔外科	教授	37年	
井上 純人	内科	講師	24年	
沼倉 周彦	小児科	講師	25年	
市川 一誠	内科	講師	22年	
吉岡 孝志	内科	教授	35年	
大泉 弘幸	外科	准教授	37年	
中村 潤	外科	講師	35年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況 (任意)

- ・研修の主な内容
ME機器セミナーⅠ：シリンジポンプ・輸液ポンプ・重症監視モニターの取り扱いについて
- ・研修の期間・実施回数
令和2年5月14日、15日・2回
- ・研修の参加人数
看護師：53名
薬剤師：12名
- ・研修の主な内容
ME機器セミナーⅡ：人工呼吸器、NPPV、SCD、メラサキューム、除細動器、心電計の取扱いについて
- ・研修の期間・実施回数
令和2年6月22日、23日・2回
- ・研修の参加人数
看護師：52名
薬剤師：12名
- ・研修の主な内容
ME機器セミナー中級編：シリンジポンプ、輸液ポンプ、人工呼吸器、NPPVのトラブルシューティング
- ・研修の期間・実施回数
令和2年10月19日、20日、21日・3回
- ・研修の参加人数
看護師：53名
- ・研修の主な内容
緊急気道管理に関する院内講習会（講義編）：気道トラブルの危険性と予防法、緊急性の判断・低酸素脳症に関する基礎知識・循環器疾患による呼吸停止・気管切開の適応と気管切開後の気道管理・困難気道アルゴリズムと新しい気道確保デバイスi-gelについて
- ・研修の期間・実施回数
令和2年11月4日・1回
- ・研修の参加人数

看護師：81名
薬剤師：5名
作業療法士：1名
理学療法士：1名

・研修の主な内容

緊急気道管理に関する院内講習会（実技編）：エアウェイスコープ、ファイバースコープ、クイックトラック、i-gelの使用法

・研修の期間・実施回数

令和2年12月6日・1回

・研修の参加人数

看護師：24名
理学療法士：1名

・研修の主な内容

静脈注射教育プログラム講習会：静脈注射の注意点、静脈注射を安全に行うための解剖生理及び近年の訴訟事例、職業感染について、静脈注射をより安全・確実に—その知識と手技—

・研修の期間・実施回数

令和2年6月17日

・研修の参加人数

看護師：48名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

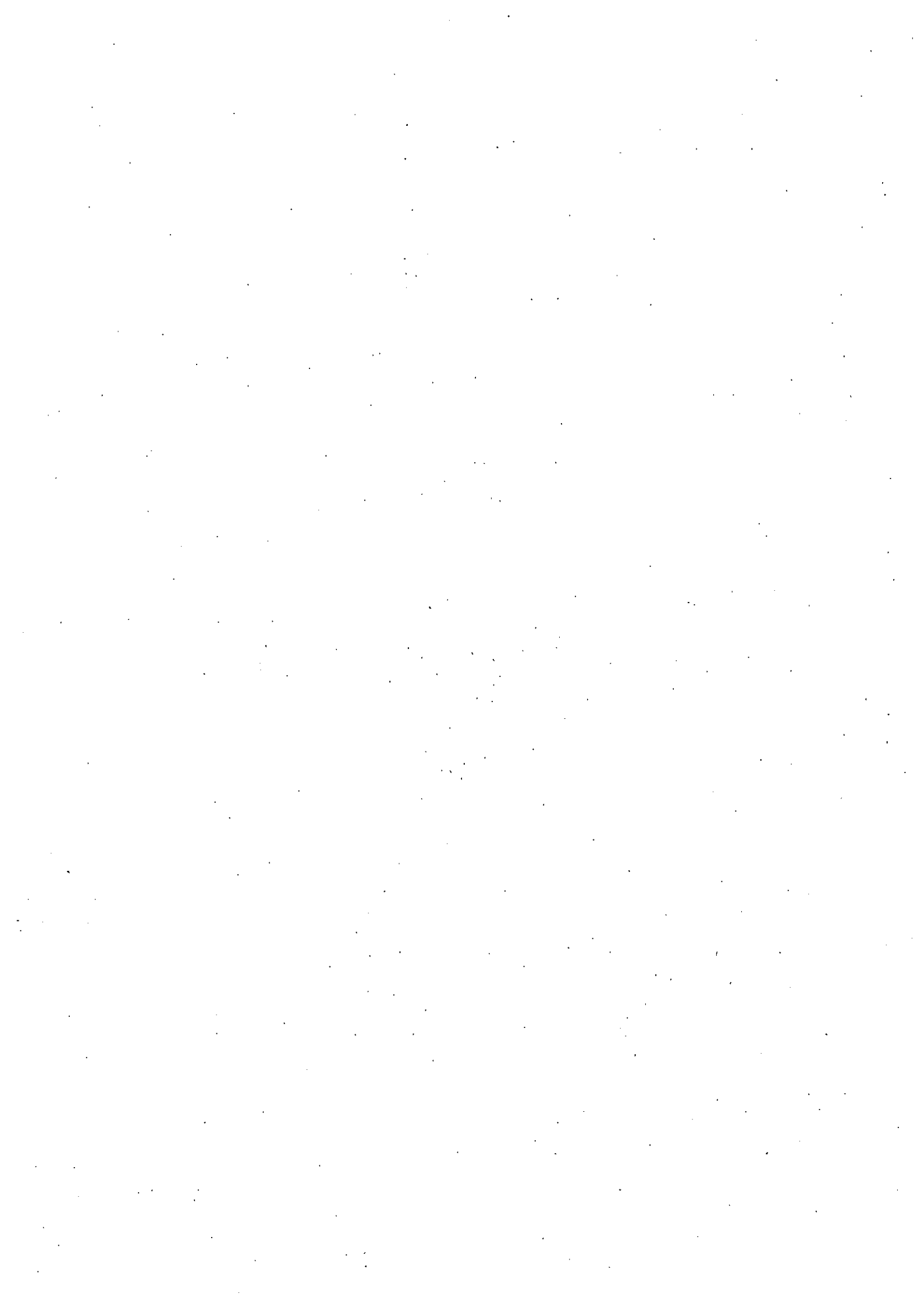
計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 佐藤 慎哉
管理担当者氏名	薬剤部長 山口 浩明、看護部長 斉藤 律子、 総務課長 斉藤 勤也、医事課長 東海林 守一、感染制御部 森兼 啓太

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課 ファイルにて年度毎に分類、保管している。	
		各科診療日誌	看護部 ファイルにて年度毎に分類、保管している。	
		処方せん	薬剤部 紙面にて入院、外来別、月毎に分類、保管している。	
		手術記録	医療情報部 (診療記録室) カルテ等病歴資料やエックス線写真は電子カルテ上で共にコンピュータによる集中管理を行っているが、一部の診療科においては、紙カルテで運用している。 手術記録や紹介状等の文書はスキャンし、タイムスタンプを取得の上、電子データを保存し原本としている。 貸出を受けた紙診療録は病院外に持ち出すことはできない。ただし、事前に所定の院外借用申請書を提出し、許可を受けた資料袋の病院外借用の場合は、その限りではない。	
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書				
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	各診療科	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	ファイルにて年度毎に分類、保管している。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課	各担当でファイルにて年度毎に分類、保管している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター 医事課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課	各担当でファイルにて年度毎に分類、保管している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課	
		医療安全管理部門の設置状況	医事課	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		監査委員会の設置状況	医事課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課	
		職員研修の実施状況	医事課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課	
管理者が有する権限に関する状況	医事課			
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	医事課			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	医事課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。



(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 佐藤 慎哉	
閲覧担当者氏名	医学部総務課長 齊藤 勤也	
閲覧の求めに応じる場所	医学部管理棟第一会議室	
閲覧の手続の概要 閲覧請求者は、閲覧申込書に必要な事項を記入し、必要書類（資格・身分を証明する証明書など）を添えて、医学部総務課庶務担当に提出することで、閲覧の請求をすることができる。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。



規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	①・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 本院における医療の安全管理に関する基本的な考え方 (2) 本院における医療の安全管理のための組織及び体制に関する基本的事項 (3) 本院における医療の安全管理のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針 (4) 本院における医療事故の報告等、医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 (5) 本院における医療事故等発生時の対応に関する基本方針 (6) 本院の医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 (7) 本院の患者からの相談への対応に関する基本方針 (8) その他、本院の医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（①・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全の指針に関する事 (2) 医療事故に係る体制に関する事 (3) 医療事故又はその恐れがある事例が発生した場合の原因調査、分析、事故の判定（影響度レベル及び過失の有無）並びに対応策に関する事 (4) 分析結果を活用した安全管理を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関する事 (5) 改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関する事 (6) 入院患者が死亡した場合及び通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして、病院長が定める水準以上の事象が発生した場合における原因調査、分析等並びに報告の実施状況の確認及び病院長への確認結果の報告に関する事 (7) 報告の実施状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及びに指導に関する事 (8) そのほかの安全管理に関する必要な事項 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年3回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者に周知徹底を行うことで、個々の従業者の安全に対する意識・安全に業務を遂行するための技能やチームの一人としての意識の向上等を図る内容 (2) 当院における具体的な事例等を取り上げた内容 (3) 当院全体に共通する安全管理に関する内容 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（①・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) あらかじめ定められた手順、事故収集の範囲等に関する規定に従い事例を収集・分析することで、当院における問題点を把握し、組織をしての改善策の企画立案及びその実施状況を評価し、これらの情報を共有する。 (2) 重大な事故の発生時には、速やかに管理者へ報告する。また、改善策については、背景要因及び根本原因を分析し、検討された効果的な再発防止策を立案する。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 本院における院内感染対策に関する基本的な考え方</p> <p>(2) 本院における院内感染対策のための委員会及びその他の組織に関する基本的事項</p> <p>(3) 本院における院内感染対策のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針</p> <p>(4) 本院における感染症の発症状況の報告に関する基本方針</p> <p>(5) 本院における院内感染発生時の対応に関する基本方針</p> <p>(6) 本院の患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</p> <p>(7) その他、本院の院内感染対策推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 重要な検討内容について、院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応状況を含め、管理者に報告する。</p> <p>(2) 院内感染が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに従業者への周知徹底を図る</p> <p>(3) 感染対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行う。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年4回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>(1) 院内感染対策のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者に周知徹底を行うことで個々の従業者の院内感染に対する意識を高め、業務を遂行する上での技能やチームの一員としての意識向上等を図る内容</p> <p>(2) 病院の実情に即した内容</p> <p>(3) 病院全体に共通する院内感染に関する内容</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 毎月1回、院内の感染状況のサーベイランスを実施し、感染対策委員会・感染制御部会で報告。感染症の発生動向を共有し、院内感染の予防及びまん延の防止を図る。 また、ICTラウンド時等の重点指導項目として活用する。(MRSA、多剤耐性緑膿菌等主要検出菌10数種類を週報として把握)</p> <p>(2) 院内感染対策の指針に即した院内感染対策マニュアル「院内感染の手引き」を整備し、各部署への配付並びに院内ネットワークにより電子媒体で提供している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年17回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 医薬品の有効性・安全性に関する情報、使用方法に関する事項 (2) 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項 (3) 医薬品による副作用等が発生した場合の対応に関する事項</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>(1) 医薬品安全管理責任者及び担当者に関する事項 (2) 本院で用いる医薬品の採用・購入に関する事項 (3) 本院における医薬品の管理に関する事項 (4) 本院の患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 (5) 本院の患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 (6) 本院における医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 (7) 本院と他施設との連携に関する事項</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)：</p> <p>・ リツキシマブ点滴静注(適応外) 抗ドナーHLA抗体陽性腎移植における抗体関連型拒絶反応の予防・治療、再発腎炎の予防・治療</p> <p>・ モキシフロキサシン(適応外) 非結核性抗酸菌症に対する治療</p> <p>2020年度申請 適応外24件 禁忌1件</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 公的機関・行政機関からの医薬品情報収集 (2) 採用医薬品の一増一減遵守 (3) 院内麻薬処方オーダー時のシステム制限(修正不可) (4) 使用時に注意を要する医薬品情報の収集と院内周知</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療機器の有効性・安全性に関する事項 (2) 医療機器の使用方法に関する事項 (3) 医療機器の保守点検に関する事項 (4) 医療機器の不具合等が発生した場合の対応に関する事項 (5) 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 ((有)・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <p>特に保守点検が必要と考えられる医療機器に対する保守点検の状況は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人工心肺装置及び補助循環装置については、始業点検及び定期点検(年1回)を実施している。 (2) 人工呼吸器については、始業点検及び定期点検(年1回)を実施している。 (3) 血液浄化装置については始業時、使用中、終了時の点検及び定期点検(年1回)を実施している。 (4) 除細動装置については、定期点検(年1回)を実施している。 (5) 閉鎖式保育器については、定期点検(年1回)を実施している。 (6) 診療用高エネルギー放射線発生装置については、始業、終業点検及び定期点検(年4回)を実施している。 (7) 診療用放射線照射装置については、始業、終業点検及び定期点検(年1回)を実施している。 (8) シリンジポンプ、輸液ポンプについては定期点検(年1回)を実施している。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)： ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療機器添付文書等の整理 (2) 医療機器の不具合や健康被害等に関する情報を病院長へ報告 (3) 医療安全管理部との情報共有や合同勉強会の開催 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	① 有・無
<p>・責任者の資格(医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者が(副病院長(医療安全担当)が、医療安全管理部、医療事故等防止対策委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	② 有(1名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品情報室において情報を収集・管理。 随時病棟等へ文書で周知。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認新規医薬品評価部門で審議。</p> <p>・担当者の指名の有無(有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種： (所属：医療安全管理部，職種 薬剤師) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	④ 有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 山形大学医学部附属病院診療録記載要項及び山形大学医学部附属病院の医療に関する安全管理指針に基づき、診療録等の記載内容確認を定期的に行い、必要に応じて診療録の記載方法や内容の指導を行う。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	⑤ 有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 山形大学医学部附属病院診療録記載要項に基づき、診療録記載の実施状況確認を定期的に行っている。また、入院時、診察時の診療録記載、及び退院サマリ・入院診療計画書・手術記録・カンファレンス時の記載内容等について、記載方法や内容について指導を行う。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

- ・所属職員：専従（6）名、専任（0）名、兼任（18）名
うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（6）名
うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名
うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（5）名
（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- (1) 医療事故等防止対策委員会の会議に関する事、その他庶務に関する事
- (2) インシデント報告の分析及び医療事故防止対策の策定に関する事
- (3) 安全管理のための研修、啓発普及、教育等の企画立案及び実施に関する事
- (4) 事故等に関する診療録等への記録の記載の確認・指導に関する事
- (5) 事故発生時の患者及び家族への対応状況の確認・指導に関する事
- (6) 事故等の原因究明についての確認・指導に関する事
- (7) 医療安全管理に係る連絡調整に関する事
- (8) 医療安全管理に資する診療状況の把握及び職員の医療安全に関する意識の向上の確認に関する事
- (9) その他医療安全対策の推進に関する事

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

適用なし

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

診療内容のモニタリングについては、肺血栓塞栓症予防策指示書や転倒の危険度チェックシート等の使用状況を確認しており、必要に応じてチェックシートの内容を再検討している。また、手術部のオカレンスレポート件数及びその中からインシデントとして報告された件数とその内容を確認している。

医療安全の認識についてのモニタリングは、全職員の医療安全に関する研修の受講状況等により確認を行っている。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（5件）、及び許可件数（4件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
令和2年度は計5件の申請があり、申請の都度部門会議及び評価委員会を開催し審議した。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
令和2年度は計1件の申請があり、定例の評価委員会及び部門会議において審議した。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年291件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年1件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) 安全管理の指針に関すること
 - (2) 医療事故に係る体制に関すること
 - (3) 医療事故又はそのおそれがある事例が発生した場合の原因調査、分析、事故の判定（影響度レベル及び過失の有無）並びに対応策に関すること
 - (4) 分析結果を活用した安全管理を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること
 - (5) 改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること
 - (6) 入院患者が死亡した場合及び通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生した場合における原因調査、分析等並びに報告の実施状況の確認及び病院長への確認結果の報告に関すること
 - (7) 報告の実施状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導に関すること
 - (8) その他安全管理に関する必要な事項

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（書面）（有（病院名：弘前大学医学部附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（書面）（有（病院名：東北大学病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
 - (1) 高難度新規医療技術の評価・認定・施行において、改善が望ましいとされた①有害事象発生時の報告書の作成、②定期的な報告書において有害事象の項目の追加、について検討し、改善を行った。
 - (2) 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供において、「診療科長からの定期的な報告および評価部門への報告が必要とされる場合の報告様式を定めておく必要があるのではないか」について検討し、改善に取り組んでいる最中である。

<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <p>・体制の確保状況 患者からの相談については、医療相談室で対応し、安全管理に係る相談についても、医療安全管理部及び関係部署と連携の上、対応するとともに管理者への報告も実施している。</p>
<p>⑫ 職員研修の実施状況</p> <p>・研修の実施状況 令和2年4月9日：インフォームド・コンセントについて 令和2年4月1日：医療におけるリスクマネジメント 令和2年6月4日，5日：シリンジポンプ・輸液ポンプ・重症監視モニターの取扱いについて 令和2年6月22日，23日：人工呼吸器，NPPV，SCD，メラサキューム，除細動器，心電計の取扱いについて 令和2年5月：医療におけるリスクマネジメント（書面開催） 令和2年10月19日，20日，21日：シリンジポンプ，輸液ポンプ，人工呼吸器，NPPVのトラブルシューティング</p>

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

<p>⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況</p> <p>・研修の実施状況 管理者：令和2年11月25日 2020年度特定機能病院管理者研修 (公益財団法人日本医療機能評価機構) 医療安全管理責任者：令和2年10月15日 2020年度特定機能病院管理者養成研修 (公益財団法人日本医療機能評価機構) 医薬品安全管理責任者： 令和2年12月18日 令和2年度 医薬品安全管理責任者等講習会 (一般社団法人 日本病院薬剤師会) 令和3年2月4日 2020年度特定機能病院管理者研修 (公益財団法人日本医療機能評価機構) 令和3年3月12日 令和2年度 第1回山形県病院薬剤師会医薬品安全管理研修会 (一般社団法人山形県病院薬剤師会) 医療機器安全管理責任者：令和2年11月2日 2020年度特定機能病院管理者研修 (公益財団法人日本医療機能評価機構)</p>

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

- ・第三者による評価の受審状況
公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価「一般病院3（3rdG:Ver.2.0）」認定
- ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況
上記評価受審に関しては、病院HPで公表している。
- ・評価を踏まえ講じた措置

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 本院の運営方針及び理念に関する事項 (2) 本院の中期目標、中期計画及び年度計画に関する事項 (3) 本院の予算及び決算に関する事項 (4) 本院の医師、看護師等職員の人事に関する事項 (5) 本院の医師、看護師等職員の負担軽減及び処遇改善に関する事項 (6) その他病院長が必要と認める重要事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 病院運営委員会に報告 ・合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・公表の方法 本学のホームページに掲載 ・外部有識者からの意見聴取の有無 (有 (無)) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
佐藤 慎哉	○	医師	病院長
根本 建二		医師	理事(病院担当)
上野 義之		医師	学部長
高木 理彰		医師	副病院長
土谷 順彦		医師	副病院長
渡辺 昌文		医師	副病院長
鈴木 民夫		医師	副病院長
欠畑 誠治		医師	副病院長
飯野 光喜		歯科医師	医学部教授
村上 正泰		教員	医学部教授
山口 浩明		薬剤師	薬剤部長
斉藤 律子		看護師	看護部長
久保 公四郎		事務職員	事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
 - ・ 公表の方法
本学のホームページに掲載
 - ・ 規程の主な内容
学長から委任される業務執行権限内容。
 - (1) 予算の執行及び決算に関する業務
 - (2) 施設・設備等の管理に関する業務
 - (3) 他の全学的事項を定めた規則で規定されている業務
 - (4) その他本法人の経営に関する業務のうち、学長が必要と認める業務
 - (5) 医療法に定める医学部附属病院の管理業務
 - ・ 管理者をサポートする体制 (副院長、院長補佐、企画スタッフ等) 及び当該職員の役割
 - (1) 副病院長：教育・医療安全
 - (2) 副病院長：経営・財務
 - (3) 副病院長：広報・地域連携
 - (4) 副病院長：外部評価・診療
 - (5) 副病院長：国際化
 - ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
病院長の特定機能病院管理者研修への参加。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理責任者、医療安全管理部、医療事故等防止対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について、病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること (2) 必要に応じ、学長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無) ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法：本学のホームページに掲載 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
栗谷 義樹	地方独立行政 法人山形県・酒 田市病院機構 理事長	○	医療に係る安全 管理又は法律に 関する識見を有 する者その他の 学識経験を有す る者	有・(無)	1
阿彦 忠之	山形県健康福 祉部医療統括 監		医療を受ける者 その他の医療従 事者以外の者	有・(無)	2
根本 建二	山形大学理事 (病院担当)		病院関係業務を 担当する理事	(有)・無	3
西岡 正樹	山形大学学術 研究院准教授 (人文社会科学 部担当)		医療に係る安全 管理又は法律に 関する識見を有 する者その他の 学識経験を有す る者	(有)・無	1
佐多 和子	NPO 法人あい在 宅福祉サービ ス理事		医療を受ける者 その他の医療従 事者以外の者	有・(無)	2
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

監査室（監事及び会計監査人と連携）による定期監査及び臨時監査

- ・ 専門部署の設置の有無（有・無）
- ・ 内部規程の整備の有無（有・無）
- ・ 内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法 本学のホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 国立大学法人山形大学経営協議会を設置している ・ 会議体の実施状況（年6回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無）（年6回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・ 公表の方法 本学のホームページに掲載 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
玉手 英利	学長	○	有
飯塚 博	理事・副学長		有
出口 毅	理事・副学長		有
矢作 清	理事・副学長		有
根本 建二	理事・副学長		有
小島 浩孝	理事・副学長		有
瀬瀬 晃	理事		有
佐藤 慎哉	附属病院長		有
相澤 益男	国立研究開発法人 科学技術振興機構 顧問		無
井上 弓子	高島電機株式会社 代表取締役会長		無
小林 裕明	株式会社山形新聞社 締役論説委員長		無
里村 正治	フィディアホールディングス株 式会社 名誉顧問		無
鈴木 道子	米沢栄養大学・米沢女子短期大学 名誉教授		無
西海 和久	株式会社ブリヂストン エクスターナルアドバイザー		無
里見 進	日本学術振興会 理事長		無
長谷川 眞理子	総合研究大学院大学 学長		無
吉村 美栄子	山形県知事		無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 ホームページへ掲載、院内の各部署へ通知を送付

